目次

目次 1

Ⅰ　学生確保の見通し及び申請者としての取組み状況 2

1　学生の確保の見通し 2

2　学生納付金の設定の考え方 16

3　学生確保に向けた具体的な取組み状況 16

Ⅱ　人材需要の動向等社会の要請 17

1　人材の養成に関する目的 17

2　社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 18

3　新見市、新見市議会及び関連機関からの要望書 19

学生の確保の見通し等を記載した書類

Ⅰ　学生確保の見通し及び申請者としての取組み状況

1　学生の確保の見通し

(1) 定員充足の見込み

入学定員設定の考え方は、以下の観点から入学定員を 4 人としており、定員充足を見込むことができると考えている。

１）本学大学院地域福祉学専攻修士課程の設置に伴う、本学健康科学部地域福祉学科と健康保育学科の在学生、本学卒業生等を対象とした大学院進学需要に対する調査の数値結果

２）西日本を中心とした社会福祉法人及び医療法人を対象とした、本学地域福祉学専攻修士課程を修了した学生の採用に対する意向調査の数値結果

３）本学大学院地域福祉学専攻修士課程の教育内容、教員組織体制、施設・設備等、及び個々の学生に充分に対応できる指導体制を確保できる人数

(2) 調査の概要

本学大学院地域福祉学専攻修士課程が開設された後(令和５年４月予定)の進学ニーズを確認するため、令和３年度現在の本学健康科学部地域福祉学科と健康保育学科の在学生、本学卒業生、並びに地域福祉学科社会福祉・介護実習施設（実習施設の関連機関を含む）、新見市役所職員を対象に、依頼文書を配布し、調査を実施した。尚、本学健康科学部地域福祉学科は、平成 31 年度に短期大学より改組されたため、令和 3 年度には 1～3 年次生のみが在籍している。

尚、設置の趣旨等を記載した書類で説明した通り、令和５年４月１日より、「看護学研究科」は「健康科学研究科」に名称変更予定である。そのため、本調査の一部では「健康科学研究科地域福祉学専攻」としている。

各調査資料は以下の通りである。

資料１ 在学生対象ニーズ調査　依頼文章

資料２ 在学生対象ニーズ調査　回答画面

学内イントラネット（Universal Passport）健康科学部地域福祉学科１～３年、健康科学部健康保育学科 1～2 年

資料３ 在学生対象ニーズ調査　回答画面

学内イントラネット（Universal Passport）健康科学部健康保育学科 3 年
資料 4 卒業生対象ニーズ調査　依頼文章
資料 5 卒業生対象ニーズ調査　回答画面　Google　フォーム
資料 6 卒業生対象ニーズ調査　回答画面　予備サイト
資料 7 実習施設職員等対象ニーズ調査　依頼文章
資料 8 実習施設職員等対象ニーズ調査　回答画面　Google　フォーム
資料 9 実習施設職員等対象ニーズ調査　回答画面　予備サイト
資料 10 修了者の採用に関する意向調査　依頼文章

(3) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

ニーズ調査の集計結果と、とりまとめは以下の通りである。

資料 11 在学生対象ニーズ調査　結果
資料 12 卒業生対象ニーズ調査　結果
資料 13 実習施設職員等対象ニーズ調査　結果

①3 年生対象のアンケート結果

調査方法、回収率等は資料 11 の通りである。回答した 3 年生 78 人の内、「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」または「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」と回答したのは 5 人であった。

計5人の他の回答状況を分析した（表1左欄）。その結果、全ての人が「大学院（修士課程）への入学を検討している」または「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」と回答していた。また全てが福祉系大学院への進学を検討しており、さらに本学の大学院への進学を検討すると回答していた。

当該学生たちは本学大学院地域福祉学専攻修士課程の開設予定である令和 5 年度の前年度に卒業する学生であることから、<u>開設当初より本学大学院地域福祉学専攻修士課程への進学を希望する可能性がある</u>。

「開設後（・卒業後）、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい」または開設後（・卒業後）、年数がたってから、合格した場合は入学する可能性がある」と回答したのは 7 人であった。計 7 人の他の回答状況を分析した（表1右欄）。その結果、「大学院（修士課程）への入学を希望しない」と 1 人が回答していた。さらに福祉系以外の大学院を希望していた人が 1 人、本学以外への進学を希望している人が 1 人いた。以上の矛盾回答を除いた、大学院（修士課程）への入学を希望し、福祉系大学院、かつ本学の大学院（修士課程）を希望する人は、3 人であった。

当該学生たちは、<u>開設から数年以内に本学大学院地域福祉学専攻修士課程への進学を希望する可能性がある</u>。

表1　在学生（3 年生）　地域福祉学専攻入学希望者の他の設問への回答状況（単位：人）
資料 11 在学生対象ニーズ調査　結果

②2 年生対象のアンケート結果

調査方法、回収率等は資料 11 の通りである。回答した 2 年生 59 人の内、「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」または「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」と回答したのは 4 人であった。

計 4 人の他の回答状況を分析した（表 2 左欄）。その結果、全ての人が「大学院（修士課程）への入学を検討している」または「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」と回答していた。また全てが福祉系大学院への進学を検討しており、さらに本学の大学院への進学を検討すると回答していた。

当該学生たちは本学大学院地域福祉学専攻修士課程の開設予定である令和 5 年度に卒業する学生であることから、開設 2 年目に本学大学院地域福祉学専攻修士課程への進学を希望する可能性がある。

「開設後（・卒業後）、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい」または開設後（・卒業後）、年数がたってから、合格した場合は入学する可能性がある」を回答したのは 5 人であった。計 5 人の他の回答状況を分析した（表 2 右欄）。その結果、「大学院（修士課程）への入学を希望しない」と 1 人が回答していた。さらに福祉系以外の大学院を希望していた人が 1 人いた。以上の矛盾回答を除いた、大学院（修士課程）への入学を希望し、福祉系大学院、かつ本学の大学院（修士課程）を希望する人は、3 人であった。

当該学生たちは、開設から数年以内に本学大学院地域福祉学専攻修士課程への進学を希望する可能性がある。

表2　在学生（2 年生）　地域福祉学専攻入学希望者の他の設問への回答状況（単位：人）
資料 11 在学生対象ニーズ調査　結果

③１年生対象のアンケート結果

調査方法、回収率等は資料 11 の通りである。1 年生 78 人の内、「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」または「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」と回答したのは 15 人であった。

計 15 人の他の回答状況を分析した（表 3 左欄）。その結果、福祉系大学院以外への進学を希望する人が 1 人、本学以外への進学を希望している人が 1 人いた。以上の矛盾回答を除い

た、大学院（修士課程）への入学を希望し、福祉系大学院、かつ本学の大学院（修士課程）を希望する人は、12 人であった。

「開設後（・卒業後）、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい」または開設後（・卒業後）、年数がたってから、合格した場合は入学する可能性がある」と回答したのは 3 人であった。計 3 人の他の回答状況を分析した（表 3 右欄）。その結果、「大学院（修士課程）への入学を希望しない」と2 人が回答していた。以上の矛盾回答を除いた、大学院（修士課程）への入学を希望し、福祉系大学院、かつ本学の大学院（修士課程）を希望する人は、1人であった。

当該学生たちは、卒業までに期間があるために、今後、進路希望が変わっていくことも予測される。しかしながら、本学に地域福祉学を専攻とする大学院研究科がないにも関わらず、現段階で大学院進学を希望する学生が一定数いたことは明らかである。以上から、開設 3 年目以降である令和 7 年度以降においても、本学大学院地域福祉学専攻修士課程への進学を希望する学部卒業の学生がいる可能性が示された。

表3　在学生（1 年生）　地域福祉学専攻入学希望者の他の設問への回答状況（単位：人）
資料 11　在学生対象ニーズ調査　結果

④卒業生のアンケート結果

調査方法、回収率等は資料 12 の通りである。回答した 73 人の内、「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」または「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」と回答したのは 7 人であった。

計 7 人の他の回答状況を分析した（表 4 左欄）。その結果、全ての人が「大学院（修士課程）への入学を希望する」、「大学院（修士課程）への入学を検討している」または「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」と回答していた。また全てが福祉系大学院への進学を検討しており、さらに本学の大学院への進学を検討すると回答していた。

「開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい」または「開設後、年数がたってから、合格した場合は入学する可能性がある」と回答したのは2人であった。

計 2 人の他の回答状況を分析した（表 4 右欄）。その結果、「大学院（修士課程）への入学を希望しない」と 1 人が回答していた。さらに本学以外への進学を希望している人が 1 人いた。以上の矛盾回答を除いた、大学院（修士課程）への入学を希望し、福祉系大学院、かつ本学の大学院（修士課程）を希望する人は 0 人であった。

回答率が極めて低かったこともあり、本学大学院地域福祉学専攻修士課程への進学を希望する者は少なかったが、若干の希望者がいた。

本学卒業生の多くは短期大学卒業であり、最終学歴も半数以上が短期大学であったことから、大学院への進学を躊躇している回答者も多くいたことが予測される（資料 12 「5. 最終学歴」）。一方で、「仕事を継続しながらの学修・研究」を希望する人が 42.5%であったことや（資料 12 「11.　大学院進学形態」）、本学地域福祉学専攻修士課程への関心を示した人が、「関心がある」と「やや関心がある」を合算すると回答者の半数以上であった（資料 12 「13.　修士課程地域福祉学専攻への関心」）を考えると、必ずしも本学地域福祉学専攻修士課程への進学意欲が全くないとはいえない。以上から、4 年制大学卒業以外の受験生に大学院受験資格を与えることや、社会人学生に配慮した研究環境や指導をより適切にすることで、卒業生がもつ大学院進学意欲を向上させることが可能であると考える。

表4　卒業生　地域福祉学専攻入学希望者の他の設問への回答状況（単位：人）
資料 12 卒業生対象ニーズ調査　結果

⑤地域福祉学科の実習施設（実習施設の関連機関を含む）及び新見市役所職員のアンケート結果

調査方法、回収率等は資料 13 の通りである。回答した 79 人の内、開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」 または「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」と回答したのは 2 人であった。

計 2 人の他の回答状況を分析した（表 5 左欄）。その結果、全ての人が「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」と回答していた。また全てが福祉系大学院への進学を検討しており、さらに本学の大学院への進学を検討すると回答していた。

「開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい」 または開設後、年数がたってから、合格した場合は入学する可能性がある」と回答したのは 7 人であった。

計 7 人の他の回答状況を分析した（表 5 右欄）。その結果、「大学院（修士課程）への入学を希望しない」と 2 人が回答し、大学院への進学を「わからない」と 2 人が回答していた。さらに、本学以外の大学院（修士課程）を希望する人は 2 人であった。以上の矛盾回答を除いた、大学院（修士課程）への入学を希望し、福祉系大学院、かつ本学の大学院（修士課程）を希望する人は、1人であった。

以上から、本学大学院地域福祉学専攻修士課程への入学希望者が少なかった一方で、本学地域福祉学専攻修士課程への関心を示した人が、「関心がある」と「やや関心がある」を合算すると回答者の 43%であった（資料 13 「16　修士課程地域福祉学専攻への関心」）。以上から現在のところ、本学地域福祉学専攻修士課程への進学希望には結びついてはいないが、「②卒業生のアンケートの結果」でも述べたように、社会人学生に配慮した研究環境や指導をより

適切にすることで、地域福祉学科の実習施設（実習施設の関連機関を含む）、新見市役所職員がもつ大学院進学意欲を向上させることが可能であると考える。

さらに、行政職員も若干ながら本学地域福祉学専攻修士課程への進学希望が見られることから、行政職員にとって有意義な研究の場を本学が提供することで、今後、行政職員の進学希望が向上する可能性もある。

表5　実習施設等職員　地域福祉学専攻入学希望者の他の設問への回答状況（単位：人）
資料 13 実習施設職員等対象ニーズ調査　結果

以上から、社会人（卒業生及び実習施設等職員）として、本学地域福祉学専攻修士課程への進学希望者が、毎年、1～2 人がいることが予測される。

①から⑤について、矛盾回答を除いた、大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、福祉系大学院、かつ本学の大学院（修士課程）を希望する人の人数を表 6 に示した。

在学生については、本学を卒業して間もない時期に、本学大学院地域福祉学専攻修士課程に進学を希望する学生が毎年いることが予測される。

本学卒業生、並びに地域福祉学科実習施設、新見市役所職員（実習施設の関連機関を含む）を対象としたにニーズ調査では、ネット利用アンケートであったことから回収率は非常に低かったが、進学の意思を示す回答者が一定数みられた。

表 6　年度別大学院入学希望者数（人）　矛盾回答を除いた人数

⑥他大学福祉系大学院の入学者等状況

表7は、福祉系の研究ができる岡山県内の２大学、及び近県の公立大学の在学者数または志願者数である。ホームページで公開されている情報からは、受験者数、福祉学を専攻とする学生の数等、正確な数を算定することは不可能であり、定員充足率を大きく上回る志願者がいるかどうかは判断できないが、福祉系の研究ができる岡山県内や近県公立大学の大学院の状況をみると、少なからず福祉系の研究を志向する学生がいることが窺われる。

日本私立学校振興・共済事業団による「令和３（2021）年度　私立大学・短期大学等入学志願動向」（資料 14）によれば、全国で「社会福祉学研究科」という研究科名の私立大学大学院は 15 研究科ある。令和 2 年度の入学定員が 197 人に対して志願者は 199 人、令和 3 年度の入学定員が 187 人に対して志願者は 222 人であった。令和 2 年度から令和 3 年度の推移をみると、入学定員充足率は 51.78%から 63.64%であり、11.86 ポイントの上昇であった。同様に、全国で「人間福祉（学）研究科」という研究科名の私立

大学大学院は3研究科あり、令和2年度の入学定員が21人に対して志願者は25人、令和3年度の入学定員が21人に対して志願者は24人であった。令和2年度、令和3年度ともに、入学定員充足率は57.14%であった。

福祉系大学院の中には、必ずしも「社会福祉学研究科」や「人間福祉（学）研究科」と標榜していない大学院もあることから、正確な福祉系大学院の定員充足率は不明であるが、社会科学系の大学院の志願者数が令和2年度から令和3年度にかけて1,014人減であるのに対して、全国の「社会福祉学研究科」」の志願者数は増加し、かつ入学定員を超えていたことを考えと、今後、福祉系大学院の志願者数が増加し、入学定員充足率が上がる可能性がある。

表7 他大学福祉系大学院の入学者等状況

資料14 令和3（2021）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向（抜粋）

以上の全国と県内、近県の状況、及び本学が実施したニーズ調査から、本学大学院地域福祉学専攻修士課程の開設年次である令和5年度から数年にわたり、定員4人を満たす、一定の志願者を確保することは困難ではないと考える。

表1　在学生（3 年生）　地域福祉学専攻入学希望者の他の設問への回答状況（単位：人）

「開設後（・卒業後）、**すぐに**受験し、合格した場合は入学したい」
＋
「開設後（・卒業後）、**すぐに**受験し、合格した場合は入学する可能性がある」
＝ 計 **5 人**

「開設後（・卒業後）、**年数がたってから**受験し、合格した場合は入学したい」
＋
「開設後（・卒業後）、**年数がたってから**受験し、合格した場合は入学する可能性がある」
=計**7人**

1）**大学院（修士課程）への入学希望**

大学院（修士課程）へ入学を希望する	0
大学院（修士課程）への入学を検討している	2
大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない	3
大学院（修士課程）への入学を希望しない	0
わからない	0
計	5

2）**大学院（修士課程）への入学を希望する場合**（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**どの系統の大学院を希望するか。**

福祉系	5
福祉系以外	0
計	5

3）**福祉系の大学院（修士課程）への入学を希望する場合、本学の大学院かどうか。**

本学	5
本学以外	0
計	5

大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**福祉系大学院**、かつ**本学の大学院（修士課程）を希望する**人の数
5 人

1）**大学院（修士課程）への入学希望**

大学院（修士課程）へ入学を希望する	0
大学院（修士課程）への入学を検討している	2
大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない	3
大学院（修士課程）への入学を希望しない	1
わからない	0
計	7

2）**大学院（修士課程）への入学を希望する場合**（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**どの系統の大学院を希望するか。**

福祉系	4
福祉系以外	1
計	5

（無回答　2 人）

3）**福祉系の大学院（修士課程）への入学を希望する場合、本学の大学院かどうか。**

本学	3
本学以外	1
計	4

（無回答　3人）

大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**福祉系大学院**、かつ**本学の大学院（修士課程）を希望する**人の数
3 人

表2　在学生（2 年生）　地域福祉学専攻入学希望者の他の設問への回答状況（単位：人）

「開設後（・卒業後）、**すぐに**受験し、合格した場合は入学したい」 ＋ 「開設後（・卒業後）、**すぐに**受験し、合格した場合は入学する可能性がある」 ＝ 計 **4 人**	「開設後（・卒業後）、**年数がたってから**受験し、合格した場合は入学したい」 ＋ 「開設後（・卒業後）、**年数がたってから**受験し、合格した場合は入学する可能性がある」 =計**5人**

1）大学院（修士課程）への入学希望

大学院（修士課程）へ入学を希望する	0
大学院（修士課程）への入学を検討している	1
大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない	3
大学院（修士課程）への入学を希望しない	0
わからない	0
計	4

2）大学院（修士課程）への入学を希望する場合（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**どの系統の大学院を希望するか。**

福祉系	4
福祉系以外	0
計	4

3）福祉系の大学院（修士課程）への入学を希望する場合、本学の大学院かどうか。

本学	4
本学以外	0
計	4

大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**福祉系大学院**、かつ**本学の大学院（修士課程）を希望する**人の数
4 人

1）大学院（修士課程）への入学希望

大学院（修士課程）へ入学を希望する	0
大学院（修士課程）への入学を検討している	0
大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない	4
大学院（修士課程）への入学を希望しない	1
わからない	0
計	5

2）大学院（修士課程）への入学を希望する場合（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**どの系統の大学院を希望するか。**

福祉系	3
福祉系以外	1
計	4

（無回答　1 人）

3）福祉系の大学院（修士課程）への入学を希望する場合、本学の大学院かどうか。

本学	3
本学以外	0
計	3

（無回答　2人）

大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**福祉系大学院**、かつ**本学の大学院（修士課程）を希望する**人の数
3 人

表3　在学生（1 年生）　地域福祉学専攻入学希望者の他の設問への回答状況（単位：人）

「開設後（・卒業後）、**すぐに**受験し、合格した場合は入学したい」 ＋ 「開設後（・卒業後）、**すぐに**受験し、合格した場合は入学する可能性がある」 ＝ 計 **15 人**	「開設後（・卒業後）、**年数がたってから**受験し、合格した場合は入学したい」 ＋ 「開設後（・卒業後）、**年数がたってから**受験し、合格した場合は入学する可能性がある」 =計**3人**

1）大学院（修士課程）への入学希望

大学院（修士課程）へ入学を希望する	1
大学院（修士課程）への入学を検討している	2
大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない	12
大学院（修士課程）への入学を希望しない	0
わからない	0
計	15

2）大学院（修士課程）への入学を希望する場合（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**どの系統の大学院を希望するか。**

福祉系	13
福祉系以外	1
計	14

（無回答　1 人）

3）福祉系の大学院（修士課程）への入学を希望する場合、本学の大学院かどうか。

本学	12
本学以外	1
計	13

（無回答　2 人）

大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**福祉系大学院**、かつ**本学の大学院（修士課程）を希望する**人の数
12 人

1）大学院（修士課程）への入学希望

大学院（修士課程）へ入学を希望する	0
大学院（修士課程）への入学を検討している	0
大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない	1
大学院（修士課程）への入学を希望しない	2
わからない	0
計	3

2）大学院（修士課程）への入学を希望する場合（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**どの系統の大学院を希望するか。**

福祉系	1
福祉系以外	0
計	1

（無回答　2 人）

3）福祉系の大学院（修士課程）への入学を希望する場合、本学の大学院かどうか。

本学	1
本学以外	0
計	1

（無回答　2人）

大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**福祉系大学院**、かつ**本学の大学院（修士課程）を希望する**人の数
1 人

表4　卒業生　地域福祉学専攻入学希望者の他の設問への回答状況（単位：人）

「開設後、**すぐに**受験し、合格した場合は入学したい」
＋
「開設後、**すぐに**受験し、合格した場合は入学する可能性がある」
＝ 計 **7 人**

1）**大学院（修士課程）への入学希望**

大学院（修士課程）へ入学を希望する	3
大学院（修士課程）への入学を検討している	2
大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない	2
大学院（修士課程）への入学を希望しない	0
わからない	0
計	7

2）**大学院（修士課程）への入学を希望する場合**（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**どの系統の大学院を希望するか。**

福祉系	7
福祉系以外	0
計	7

3）**福祉系の大学院（修士課程）への入学を希望する場合、本学の大学院かどうか。**

本学	7
本学以外	0
計	7

大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**福祉系大学院**、かつ**本学の大学院（修士課程）を希望する**人の数
7 人

「開設後、**年数がたってから**受験し、合格した場合は入学したい」
＋
「開設後、**年数がたってから**受験し、合格した場合は入学する可能性がある」
=計**2人**

1）**大学院（修士課程）への入学希望**

大学院（修士課程）へ入学を希望する	0
大学院（修士課程）への入学を検討している	0
大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない	1
大学院（修士課程）への入学を希望しない	1
わからない	0
計	2

2）**大学院（修士課程）への入学を希望する場合**（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**どの系統の大学院を希望するか。**

福祉系	1
福祉系以外	0
計	1

（無回答　1 人）

3）**福祉系の大学院（修士課程）への入学を希望する場合、本学の大学院かどうか。**

本学	0
本学以外	1
計	1

（無回答　1人）

大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**福祉系大学院**、かつ**本学の大学院（修士課程）を希望する**人の数
0 人

表5　実習施設等職員*1)　地域福祉学専攻入学希望者の他の設問への回答状況（単位：人）

「開設後、**すぐに**受験し、合格した場合は入学したい」
＋
「開設後、**すぐに**受験し、合格した場合は入学する可能性がある」
＝ 計 **2 人**

「開設後、**年数がたってから**受験し、合格した場合は入学したい」
＋
「開設後、**年数がたってから**受験し、合格した場合は入学する可能性がある」
=計**7人**

1）**大学院（修士課程）への入学希望**

大学院（修士課程）へ入学を希望する	0
大学院（修士課程）への入学を検討している	0
大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない	2
大学院（修士課程）への入学を希望しない	0
わからない	0
計	2

2）**大学院（修士課程）への入学を希望する場合**（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**どの系統の大学院を希望するか。**

福祉系	2
福祉系以外	0
計	2

3）**福祉系の大学院（修士課程）への入学を希望する場合、本学の大学院かどうか。**

本学	2
本学以外	0
計	2

大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**福祉系大学院**、かつ**本学の大学院（修士課程）を希望する**人の数
2 人

1）**大学院（修士課程）への入学希望**

大学院（修士課程）へ入学を希望する	0
大学院（修士課程）への入学を検討している	0
大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない	3
大学院（修士課程）への入学を希望しない	2
わからない	2
計	7

2）**大学院（修士課程）への入学を希望する場合**（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**どの系統の大学院を希望するか。**

福祉系	3
福祉系以外	0
計	3

（無回答　4 人）

3）**福祉系の大学院（修士課程）への入学を希望する場合、本学の大学院かどうか。**

本学	1
本学以外	2
計	3

（無回答　4人）

大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、**福祉系大学院**、かつ**本学の大学院（修士課程）を希望する**人の数
1 人

*1)地域福祉学科福祉・介護実習施設（実習施設の関連機関を含む）、新見市役所職員

表 6　年度別大学院入学希望者数（人）　矛盾回答を除いた人数　注１）

在学生						
調査時点学年	3 年生		2 年生		1 年生	
入学希望年度	令和 5 年度 注 2)	令和 6 年度以降 注 3)	令和 6 年度 注 2)	令和 7 年度以降　注 3)	令和 7 年度 注 2)	令和 8 年度以降 注 3)
希望者数	5	3	4	3	12	1
卒業生						
入学希望年度	令和 5 年度注 4)	令和 6 年度以降　注 5)				
希望者数	7	0				
実習施設等職員						
入学希望年度	令和 5 年度　注 4)	令和 6 年度以降　注 5)				
希望者数	2	1				
合計	**14**	**4**	**4**	**3**	**12**	**1**

注 1)　矛盾回答とは、例えば、「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」と回答したが、別の設問で「本学以外」の大学院を希望していると回答している場合である。本表では、表 1～４に示した、大学院（修士課程）への入学を希望し（「大学院（修士課程）へ入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」）、福祉系大学院、かつ本学の大学院（修士課程）を希望する人の人数を掲載している。

注２）「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」と「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」との合算

注３）「開設後（・卒業後）、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい」と「開設後（・卒業後）、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある」との合算

注４）「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」と「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」との合算

注５）「開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい」と「開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある」との合算

表 7 他大学福祉系大学院の入学者等状況

所在地	研究科名称・課程	入 学 定員	令和 3 年度		研究科の構成等
			1 年生	2年生	
岡山県内	岡山県立大学大学院保健福祉学研究科保健福祉学専攻 博士前期課程	7	5	9	同研究科の中に「看護学専攻」「栄養学専攻」「保健福祉学専攻」があり、専攻毎に入学定員が決められている。
	川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科医療福祉学専攻 修士課程	10	4 （入学試験受験者数）	7 （入学試験受験者数）	同研究科の中に「医療福祉学」「臨床心理学専攻」「保健看護学」があり、専攻毎に入学定員が決められている。専攻毎の入学者数は不明。
広島県	県立広島大学総合学術研究科保健福祉学専攻 修士課程	20	21	32	「地域保健学・実践看護学分野」「総合リハビリテーション分野」「ヒューマンサービス分野」に分かれている。域頃の入学者は不明。
高知県	高知県立大学大学院人間生活学研究科 博士前期課程	18	8	12	「栄養・生活学領域」「社会福祉学領域」「文化学領域」に分かれている。領域頃の入学者は不明。

2　学生納付金の設定の考え方

研究科の授業料等については、下記の通りとする予定である。

入学検定料	入学金		授業料（年額）	後援会費（初年度のみ）
	新見市内の者及び本学卒業生（卒業見込みを含む）注1)	左記以外の者		
30,000円	188,000円	282,000円	535,800円	30,000円 （入会金10,000円、会費20,000円） 注2)

注 1)「新見市内の者」とは、本人が入学の日の属する月の初日において引き続き1年以上新見市内に住所を有する場合をいい、その認定は、住民基本台帳等によりこれを行う。

注 2) 本学を卒業した者(見込みを含む)は、入会金を納付する必要はない。

3　学生確保に向けた具体的な取組み状況

学生確保に向けた具体的な取組みについては、設置申請前、申請後のそれぞれの段階において、以下の取組みを実施する。

(1) 学部向けの取組み

教育課程の構成が将来の就職と直接的に結びついているという特徴を踏まえ、職業活動の前提となる各種資格の取得を支援しつつも、学部学生に大学院進学を将来のキャリア形成につながる選択肢の一つとして明確に意識させるため、短期的及び中長期的措置として、以下の方策を実施する。

1. 本学大学院地域福祉学専攻修士課程の構想、入学試験等に関する説明会・相談会を実施する。
2. 学内進学を推進するために、個別の相談会を実施する。
3. 本学修学・キャリア支援センターと連携して、大学院進学に関する相談を受け付ける体制を作る。

(2) 社会人（専門職従事者）向けの取組み

社会人の本学大学院地域福祉学専攻修士課程に関する関心、就学の意欲を涵養し、高めるために、以下の方策を実施する。

1. 大学ホームページ及びオープンキャンパスのチラシ等で本学大学院地域福祉学専攻修士課程開設の広報活動を実施する。
2. 新見市、新見市社会福祉協議等に協力を仰ぎ、一般市民を含む社会人向けに、大学院の構想、入学試験等に関する説明会・相談会を実施する。
3. 岡山県社会福祉士会、岡山県介護福祉士会に協力を仰ぎ、専門職向けの説明会、相談会を実施する。
4. 県下の社会福祉協議会、社会福祉施設、専門職団体、ＮＰＯなどと日常的に連携、協働して研究会、ワークショップなどを開催し、研究活動ひいては大学院における研究教育活動に対する関心を高めるように努める。

Ⅱ 人材需要の動向等社会の要請

1 人材の養成に関する目的

新見公立大学健康科学部地域福祉学科は、平成 31 年 4 月に短期大学から 4 年制大学に改組し、社会福祉士及び介護福祉士をはじめ国家資格をもった人材を養成している。中山間地域の今後を考える際、国家資格を取得した人材の輩出は必須ではあるが、それだけでは不十分である。今後、さらに多くの課題を抱える中山間地域が持続可能な地域となり、かつ共生社会を実現していくためには、修士レベルのより高度な教育を受けた人材の育成が必要となる。

設置の趣旨等を記載した書類で説明した通り、共生社会を構築していくためには全世代型の支援ができる高度な地域福祉人材が必要である。さらに今後、ますます複雑化、多様化、重層化する中山間地域の住民がもつ生活課題に対して、多くの関係者とともに、連携・協働し、住民主体での解決を目指すことができる福祉の実践的リーダーも必要となる。すでに中山間地域で活躍している福祉人材へのリカレント教育も必要である。さらに、人口 3 万人未満の市町村が全国の半数以上を占める中で、中山間地域がそれぞれ連携して、各々の地域の課題を解決することが今後より必要となる。

以上から、本学は地域福祉学を基盤として、中山間地域の課題解決を目指して活躍できる福祉の実践的リーダーの育成が必要であると考えた。さらに中長期的には、大学院本学地域福祉学専攻が理念とする福祉学の視点からみた全世代型地域包括ケアを追究・実践できるリーダーが、全国の多くの中山間地域で活躍できるような人材の育成を目指す。そのために、まずは本学が位置する新見市のみならず、広島県、鳥取県、

島根県の隣接市町村と連携した上で、中山間地域がもつ課題の解決に寄与できる人材の育成を行う。

2 社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

（1）社会的、地域的な人材需要の動向

令和 3 年 12 月末現在、（一社）日本ソーシャルワーク教育学校連盟に加入している大学は 264 校である。同連盟ホームページによれば、その内、中四国地域で大学院を設置している大学は 10 大学である。岡山県に限定すれば 3 大学のみである。よって、近隣県内で、社会福祉系大学院は必ずしも多くはない。今後、中山間地域の課題を解決することを志向する社会福祉系大学院が必要となると考えられ、現段階で、全国で「地域福祉学」を基盤とした人材を育成している大学院は他にないことから、希少性とともに先進性がある。

設置の書類等を記載した書類で説明したが、社会的、地域的な人材育成に対する需要の高まりは簡単にまとめると以下の通りである。

社会福祉法の改正（令和 2 年 6 月可決）により、重層的支援体制整備事業が創設された（市町村における包括的な支援体制の構築に関する改正規定は令和 3 年 4 月施行）が、その背景として、地域住民が抱える課題の複雑化・複合化と、子ども・障害・高齢・生活困窮といった分野別の支援体制では、複雑・複合的な課題や狭間のニーズへの対応が困難になっている現状がある。

資料 15 「重層的支援体制整備事業における具体的な支援フローについて」（抜粋）

参議院厚生労働委員会は「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議」において、市町村が重層的支援体制整備事業を実施するにあたっては「社会福祉士や精神保健福祉士が活用されるよう努めること」と示し、地域共生社会の実現に向けてソーシャルワーカーの機能や役割に期待を寄せられている。また、厚生労働省「福祉人材確保対策検討会における議論の取りまとめ」（平成 26 年 10 月）では介護福祉における高度な専門性をもった人材の育成が必要とされており、今後の政策においてもより重要な課題になることが予測される。

資料 16 「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議」

資料 17 「福祉人材確保対策検討会における議論の取りまとめ」（抜粋）

本学が位置する岡山県は「岡山県地域福祉支援計画 （第 3 次改訂版）」（令和 2 年 3 月）において、福祉サービスに従事する人材の養成・確保に関する事業や知識・技術の向上を図るための研修、新たな福祉サービス従事者の育成体制を充実していくこ

とが必要であるとした。さらに新見市は、「第 2 期新見市地域福祉計画」（令和 2 年 7 月）において、子ども・子育てや障害者福祉、高齢者福祉といった各分野におけるサービス提供者間の連携を図り、情報を共有するとともに、それぞれの分野において専門性の高い人材の育成が必要であるとした。

資料 18 「岡山県地域福祉支援計画（第３次改訂版）」（抜粋）

資料 19 「第２期新見市地域福祉計画」（抜粋）

(2) 修了者の採用に関する意向調査の概要

西日本を中心とした社会福祉法人及び医療法人を対象に、本学大学院地域福祉学専攻修士課程を修了した学生の採用に対する意向調査を実施した。調査方法、回収率等は資料 20 の通りである。

「本学大学院地域福祉学専攻修士課程において育成しようとしている能力（資質）は、貴法人に役立つとお考えですか。」の問いに関して、「とても役に立つ」35 件（24.5%）、「役に立つ」84 件（58.7%）で、本学が育成を目指している能力を 80%以上が、役に立つと考えていた。

「貴法人では、本学大学院地域福祉学専攻修士課程の修了者を採用したいと思われますか。」と尋ねたところ、「採用したい」35 件（24.3%）、「採用する方向で考えたい」18 件（12.5%）であり、採用意欲があるのは 40%弱であった。

「貴法人では、貴職員に対して本学大学院地域福祉学専攻修士課程への進学を勧めたいと思われますか。」と、事業所からのキャリアアップの意向について尋ねたところ、「勧めたい」7 件（4.7%）、「勧める方向で考えたい」8 件（5.4%）、「勧める可能性がある」54 件（36.2%）であった。

以上から、本学大学院地域福祉学専攻修士課程が目指す人材の育成に対して、岡山県内を含んだ西日本を中心とした社会福祉法人、医療法人からの期待が寄せられている。以上は、<u>将来的に各法人から本学大学院地域福祉学専攻修士課程への進学を希望する職員が増えていくことや、修了後、多くの施設で活躍できる場が充分に担保されていることの証となる。</u>

資料 20 修了者の採用に関する意向調査　結果

3 新見市、新見市議会及び関連機関からの要望書

本学大学院地域福祉学専攻修士課程の設置に対する要望書が、新見市長、新見市議会議長、新見市商工会議所会頭、新見市社会福祉士会、(一社)岡山県介護福祉士会、及び新見市社会福祉法人連絡協議会から提出された。地方自治体、職能団体、社会福

祉施設・機関の本学大学院地域福祉学専攻修士課程への期待が非常に大きいことがわかる。

尚、設置の趣旨等を記載した書類で説明した通り、令和５年４月１日より、「看護学研究科」は「健康科学研究科」に名称変更予定である。そのため、要望書では「健康科学研究科地域福祉学専攻」となっている。

資料 21　要望書

以上から人口 3 万人未満の中山間地域に位置する本学は、その社会的責任として、地域福祉学を基盤として中山間地域の課題解決を志向する高度職業人の育成を目標としており、その必要性は政策等でも指摘されている。さらに、そのような高度職業人の育成を本学大学院地域福祉学専攻修士課程に期待していると判断される。

資料目次

資料1 在学生対象ニーズ調査　依頼文章
資料2 在学生対象ニーズ調査　回答画面
　学内イントラネット（Universal Passport）健康科学部地域福祉学科 1～3 年、健康科学部健康保育学科 1～2 年
資料3 在学生対象ニーズ調査　回答画面
　学内イントラネット（Universal Passport）健康科学部健康保育学科 3 年
資料4 卒業生対象ニーズ調査　依頼文章
資料5 卒業生対象ニーズ調査　回答画面　Google　フォーム
資料6 卒業生対象ニーズ調査　回答画面　予備サイト
資料7 実習施設職員等対象ニーズ調査　依頼文章
資料8 実習施設職員等対象ニーズ調査　回答画面　Google　フォーム
資料9 実習施設職員等対象ニーズ調査　回答画面　予備サイト
資料10 修了者の採用に関する意向調査　依頼文章
資料11 在学生対象ニーズ調査　結果
資料12 卒業生対象ニーズ調査　結果
資料13 実習施設職員等対象ニーズ調査　結果
資料14 令和３（2021）年度 私立大学・短期大学等入学志願動向（抜粋）
資料15 重層的支援体制整備事業における具体的な支援フローについて」（抜粋）
資料16 地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議」
資料17 福祉人材確保対策検討会における議論の取りまとめ」（抜粋）
資料18 「岡山県地域福祉支援計画（第３次改訂版）」（抜粋）
資料19 「第２期新見市地域福祉計画」（抜粋）
資料20 修了者の採用に関する意向調査 結果
資料21 要望書

資料1 在学生対象ニーズ調査　依頼文章

2021 年 10 月 1 日

在学生（地域福祉学科・健康保育学科）の皆様

地域福祉学科

新見公立大学大学院に関するアンケートご協力のお願い

現在、中山間地域をはじめ地方都市では少子・高齢化と人口減少をはじめ多くの課題に直面しており、課題解決のためにより高度な専門性を身につけた地域福祉人材の育成が求められていると考えています。現在、本学大学院は看護学専攻のみが設置されていますが、健康科学部地域福祉学科の卒業生を輩出する 2023 年を目標に大学院を改組して「地域福祉学専攻（修士課程）」（入学定員 4 名）の設置を構想しています。

そこで今回、学生の皆様のニーズを把握することを目的に、大学院設置に関する調査を計画いたしました。ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。

調査では個人が特定されることはございません。データは統計的に処理し、匿名性を保持いたします。また、調査へのご協力は任意であり、ご協力いただけない場合でも不利益は一切ございません。データ分析の結果は大学院設置に関わる書類のみで公表する予定であり、上記倫理的配慮については堅持してまいります。

なお、構想の詳細は別途資料をご確認ください。また設置構想中ですので内容等が変更になる可能性があります。

〇対象者

新見公立大学健康科学部地域福祉学科・健康保育学科の在学生

〇回答方法

Universal　Passport のアンケートで回答してください。

〇回答期間

2021 年 10 月 1 日 12 時～10 月 8 日

（健康保育学科 3 年生の方は 11 月 1 日～11 月 12 日まで）

問い合わせ:
新見公立大学健康科学部　地域福祉学科
准教授　井上　信次
TEL：0867-72-0634 Fax：0867-72-1492
E-Mail ：●●●●@niimi-u.ac.jp

地域福祉学専攻 修士課程　修士（地域福祉学）

中山間地域の福祉によるまちづくりに向けて

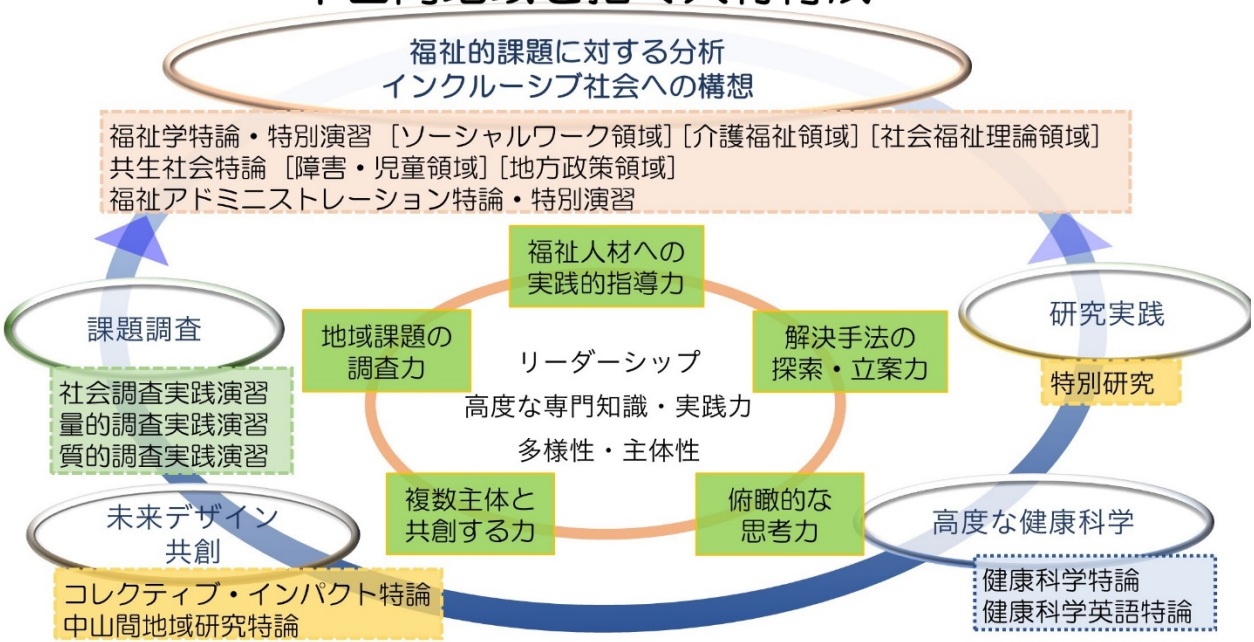
中山間地域の持続可能なコミュニティデザイン

インクルーシブ社会にむけて先駆的に活動する福祉専門職のリーダー

地域課題の調査力、解決手法の探索・立案力、実践的指導力を持つ福祉実践者/研究者

共創の視点からコミュニティをデザインする福祉実践者/研究者

中山間地域を拓く人材育成



中山間地域のインクルーシブで持続的なコミュニティをデザインする
福祉専門職の実践的リーダーを育成する科目を設置します。

①俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する調査力を修得する科目群
- 高度な健康科学の視点を取得する科目（研究科共通科目）：「健康科学特論」「健康科学英語」
- 調査とデータ解析に関する実践力を修得する科目（専門社会調査士科目）:「社会調査実践演習」等

②解決手法の探索・立案力、次世代の福祉人材を実践的に指導する力を修得する科目群
- 福祉専門職リーダーの視点から中山間地域等の福祉的課題を分析し、その解決策を持続可能性とインクルーシブの視点から次世代の福祉人材とともに探索・立案する力を修得する科目:「福祉学特論」「共生社会特論」等

③地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力を修得する科目群
- 複数の主体との共創型の地域課題の解決力を修得する科目:「コレクティブ・インパクト特論」「中山間地域研究特論」

○共創（コレクティブ・インパクト）：行政、企業、福祉機関・施設、NPO、地域住民など様々な主体による協働によって社会課題の解決をすること。
○専門社会調査士：（一社）社会調査協会が認定する資格。調査企画能力、調査運営管理能力、高度な分析手法など実践能力を有している調査の専門家。

本資料の内容は設置構想中のものであり、変更になる場合があります。

健康科学研究科の目的

新見公立大学大学院健康科学研究科は、学術の理論及び応用を教授研究し、深奥を究め、学術と教育の振興を図り、保健・医療・福祉の増進と地域医療の発展に寄与するとともに、学術研究を創造的に推進する優れた研究者並びに高度で専門的な知識と能力を有する職業人を育成する。

修士課程地域福祉学専攻

中山間地域等のさまざまな地域課題を分析し、その解決にむけて行政や関連団体と協働して主体的、実践的に取り組み、持続的でインクルーシブな中山間地域の未来をデザインし、先駆的に活動できるリーダー的福祉専門職を育成します。

養成する人材像

- 俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する力をもった福祉実践者/研究者
- 解決手法の探索力と立案力を身につけて、次世代の福祉人材を実践的に指導する力をもった福祉実践者
- 地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力をもった福祉実践者/研究者

修了後の進路

医療機関、福祉機関、教育研究機関・シンクタンク、行政機関、NPO/NGOなどの民間団体、小・中・高等学校、進学等

本学大学院に進学するメリット

〇臨床、実践の場で起こっている課題を改めて見直し、研究することでその解決に近づくことができます。複雑化する課題の解決ために大学院での研究が不可欠です。
〇大学等研究機関で、研究者として活躍することができます。

- 持続可能なコミュニティを構築するために地域福祉実践者のリーダーが求められています。リーダーとしての知識と実践力を身につけることができます。
- リーダーに求められる健康科学の視点からの俯瞰的な思考力、地域課題の調査力、解決手法の探索・立案力、ならびに実践的指導力を身につけることができます。
- 自治体職員等に求められるコミュニティデザインやインクルーシブ社会に関連する知見の修得、ならびに地域福祉に関する実践的研究の場を活用しての地域課題の解決につなげることができます。

働きながら本学大学院に進学する場合

①長期履修制度により、時間をかけて研究することができます。
②夜間・土曜日開講により、働きながらでも研究ができます。
③オンライン講義により、本学に来なくても一部の講義を受けることができます。
④倉敷市白楽町にあるサテライト教室での講義も併用します。

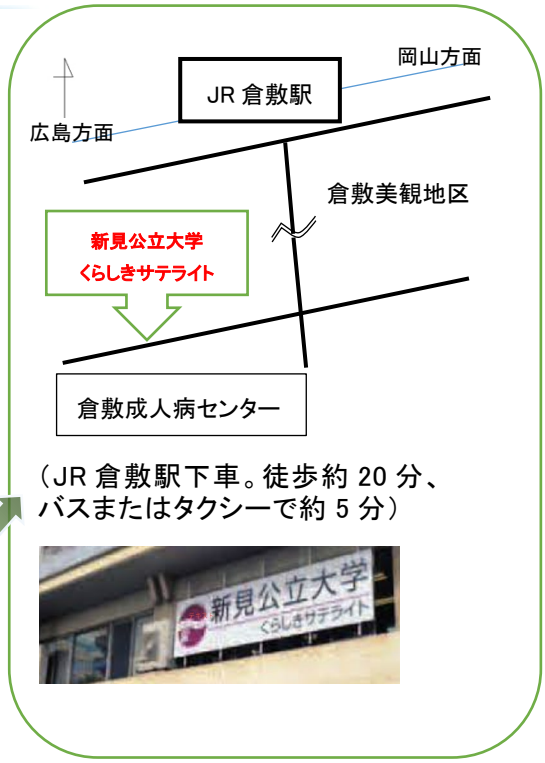
本資料の内容は設置構想中のものであり、変更になる場合があります。

NIIMI UNIVERSITY
新見公立大学 NiU
〒718-8585　岡山県新見市西方1263-2
電話：0867-72-0634（代表）

1）アクセスマップ

「新見公立大学」
（岡山県新見市西方）

「新見公立大学くらしきサテライト」
（岡山県倉敷市白楽町）



（JR 倉敷駅下車。徒歩約 20 分、バスまたはタクシーで約 5 分）

2）学納金（**参考**） 2022年度入学生

	入学料	授業料（年額）	他
新見公立大学大学院 看護学研究科修士課程	**新見市内の者 188,000 円 上記以外の者 282,000 円**	**535,800 円**	**後援会費 :30,000 円(入会金 10,000 円 会費 20,000 円) (注)新見公立大学を卒業した者(見込みを含む)は、入会金不要**
（岡山県内他大学）			
岡山県立大学院 保健福祉学研究科 博士前期課程	岡山県内の者 188,000 円 上記以外の者 282,000 円	535,800 円	後援会費:44,000 円 （入会金 20, 000 円 会費(2 年分)24,000 円） 同窓会費:10,000 円（入会金） (注)岡山県立大学を卒業した者(見込みを含む)は、後援会入会金、同窓会費不要
川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 修士課程 （医療福祉学専攻）	200,000 円 （注）川崎医療福祉大学卒業生は半額	400,000 円	教育充実費 :（年間） 300,000 円 協助費 :（2年間） 15,000 円

（各大学の学納金は入学試験要項、学生募集要項に記載のものです。他の学納金、納付方法等の詳細は各大学にお尋ねください。）

資料2 在学生対象ニーズ調査　回答画面　学内イントラネット（Universal Passport）健康科学部地域福祉学科1～3年、健康科学部健康保育学科1～2年

大学卒業後の進路についての調査

地域福祉学科
健康保育学科の皆さんへ

地域福祉学科　　差出人：地域福祉学

現在、中山間地域をはじめ地方都市では少子・高齢化と人口減少をはじめ多くの課題に直面しており、課題解決のためにより高度な専門性を身につけた地域福祉人材の育成が求められていると考えています。現在、本学大学院は看護学専攻のみが設置されていますが、健康科学部地域福祉学科の卒業生を輩出する2023 年を目標に大学院を改組して「地域福祉学専攻（修士課程）」の設置を構想しています。

そこで今回、学生の皆様のニーズを把握することを目的に、大学院設置に関する調査を計画いたしました。ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。データは統計的に処理し、匿名性を保持いたします。また、調査へのご協力は任意であり、ご協力いただけない場合でも不利益は一切ございません。データ分析の結果は大学院設置に関わる書類のみで公表する予定であり、上記倫理的配慮については堅持してまいります。

なお、構想の詳細別途資料　ご確認ください。また設置構想中ですので内容等が変更になる可能性があります。

地域福祉学科

問い合わせ先：地域福祉学科　准教授　井上信次

・地域福祉学科の方、及び健康保育学科１～２年生の方は10月8日までに回答してください。
（間に合わなかった場合でも10月30日までは回答可能です）

1.
あなたの性別を一つ選択してください。
選択必須

- ○ 男性
- ○ 女性
- ○ 答えたくない

2.
あなたの学年を一つ選択してください。
選択必須

- ○ 1年生
- ○ 2年生
- ○ 3年生

3.
あなたの所属学科を一つ選択してください。
選択必須

- ○ 地域福祉学科
- ○ 健康保育学科

4.
大学院への進学についてどのように考えていますか。
選択必須

- ○ 大学院（修士課程）へ入学を希望する
- ○ 大学院（修士課程）への入学を検討している
- ○ 大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれ
- ○ 大学院（修士課程）への入学を希望しない
- ○ わからない

5.
※こちらの設問は「4」の設問で「大学院（修士課程）へ入学を希望する／大学院（修士課程）への入学を検討している／大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」の**いずれか**を選択した場合のみ回答してください。それ以外を選択した場合は削除されます。
大学院への入学を希望、または検討する可能性がある大学院はどちらですか。いずれか一つを選択してください。

- ○ 福祉系の大学院
- ○ 福祉系以外の大学院

6.
※こちらの設問は「5」の設問で「福祉系の大学院」を選択した場合のみ回答してください。それ以外を選択した場合は削除されます。
福祉系の大学院への入学を希望している方にお聞きします。いずれか一つを選択してください。

- ○ 本学の大学院
- ○ 他大学の大学院

7.
大学院に入学される場合、その目的として当てはまるものをすべて選択してください。
選択必須

- □ 専門知識の取得
- □ 資格取得
- □ 学位（修士）の取得
- □ 特にない・大学院入学を希望していな
- □ その他

8.
大学院入学と就業の形態としてどのようなものを望みますか。当てはまるもの一つ選択してください。
選択必須

- ○ 学業だけに専念する
- ○ 仕事をしながらの学修・研究
- ○ 未定・分からない
- ○ 特にない・大学院入学を希望していな
- ○ その他

9.
本学大学院での学習環境としてどのようなものを望みますか。当てはまるものをすべて選択してください。

*長期履修制度を利用した場合、2年間の学費で3年または4年をかけてゆっくり学修・研究することが可能です。
選択必須

- [ ] 通信（WEB）を利用した学修・研究
- [ ] 土曜日開講
- [ ] 夜間開講
- [ ] サテライト教室の開講（倉敷市白楽町での開講を予定していま
- [ ] 奨学金の充実
- [ ] 長期履修制度
- [ ] 特にない・大学院入学を希望していない

10.
本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）にどの程度関心がありますか。現在構想中の内容につきましては…
選択必須

- ○ 関心がある
- ○ やや関心がある
- ○ あまり関心がない
- ○ 関心がない

11.
本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）が設置された場合、受験し入学したいですか。当てはまるものを…
選択必須

- ○ 開設後(・卒業後)、すぐに受験し、合格した場合は入学したい
- ○ 開設後(・卒業後)、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある
- ○ 開設後(・卒業後)、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい
- ○ 開設後(・卒業後)、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性
- ○ わからない
- ○ 受験しない

12.
大学院についてご意見、要望等があれば自由に記入してください。 ＊なお、対応については返信ができませんので、…

回答、ありがとうございました。　地域福祉学科

資料3 在学生対象ニーズ調査　回答画面　学内イントラネット（Universal Passport）
（健康科学部健康保育学科3年）

大学卒業後の進路についての調査

健康保育学科3年生の皆さんへ

地域福祉学科

　現在、中山間地域をはじめ地方都市では少子・高齢化と人口減少をはじめ多くの課題に直面しており、課題解決のためにより高度な専門性を身につけた地域福祉人材の育成が求められていると考えています。現在、本学大学院は看護学専攻のみが設置されていますが、健康科学部地域福祉学科の卒業生を輩出する2023 年を目標に大学院を改組して「地域福祉学専攻（修士課程）」の設置を構想しています。
　そこで今回、学生の皆様のニーズを把握することを目的に、大学院設置に関する調査を計画いたしました。ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。データは統計的に処理し、匿名性を保持いたします。また、調査へのご協力は任意であり、ご協力いただけない場合でも不利益は一切ございません。データ分析の結果は大学院設置に関わる書類のみで公表する予定であり、上記倫理的配慮については堅持してまいります。
なお、構想の詳細別途　料をご確認ください。また設置構想中ですので内容等が変更になる可能性があります。

地域福祉学科

問い合わせ先：地域福祉学科　准教授　井上看坂人：地域福祉学科

・11月12日までに回答してください。

1.
あなたの性別を一つ選択してください。
選択必須

- ○ 男性
- ○ 女性
- ○ 答えたくない

2.
あなたの学年を一つ選択してください。
選択必須

- ○ 1年生
- ○ 2年生
- ○ 3年生

3.
あなたの所属学科を一つ選択してください。
選択必須

- ○ 地域福祉学科
- ○ 健康保育学科

4.
大学院への進学についてどのように考えていますか。
選択必須

- ○ 大学院（修士課程）へ入学を希望する
- ○ 大学院（修士課程）への入学を検討している
- ○ 大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれ
- ○ 大学院（修士課程）への入学を希望しない
- ○ わからない

5.
※こちらの設問は「4」の設問で「大学院（修士課程）へ入学を希望する／大学院（修士課程）への入学を検討している／大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」の**いずれか**を選択した場合のみ回答してください。それ以外を選択した場合は削除されます。
大学院への入学を希望、または検討する可能性がある大学院はどちらですか。いずれか一つを選択してください。

- ○ 福祉系の大学院
- ○ 福祉系以外の大学院

6.
※こちらの設問は「5」の設問で「福祉系の大学院」を選択した場合のみ回答してください。それ以外を選択した場合は削除されます。
福祉系の大学院への入学を希望している方にお聞きします。いずれか一つを選択してください。

- ○ 本学の大学院
- ○ 他大学の大学院

7.
大学院に入学される場合、その目的として当てはまるものをすべて選択してください。
選択必須

- □ 専門知識の取得
- □ 資格取得
- □ 学位（修士）の取得
- □ 特にない・大学院入学を希望していな
- □ その他

8.
大学院入学と就業の形態としてどのようなものを望みますか。当てはまるもの一つ選択してください。
選択必須

- ○ 学業だけに専念する
- ○ 仕事をしながらの学修・研究
- ○ 未定・分からない
- ○ 特にない・大学院入学を希望していな
- ○ その他

9.
本学大学院での学習環境としてどのようなものを望みますか。当てはまるものをすべて選択してください。

*長期履修制度を利用した場合、2年間の学費で3年または4年をかけてゆっくり学修・研究することが可能です。
選択必須

- [ ] 通信（WEB）を利用した学修・研究
- [ ] 土曜日開講
- [ ] 夜間開講
- [ ] サテライト教室の開講（倉敷市白楽町での開講を予定していま
- [ ] 奨学金の充実
- [ ] 長期履修制度
- [ ] 特にない・大学院入学を希望していない

10.
本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）にどの程度関心がありますか。現在構想中の内容につきましては…
選択必須

- ○ 関心がある
- ○ やや関心がある
- ○ あまり関心がない
- ○ 関心がない

11.
本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）が設置された場合、受験し入学したいですか。当てはまるものを…
選択必須

- ○ 開設後(・卒業後)、すぐに受験し、合格した場合は入学したい
- ○ 開設後(・卒業後)、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある
- ○ 開設後(・卒業後)、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい
- ○ 開設後(・卒業後)、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性
- ○ わからない
- ○ 受験しない

12.
大学院についてご意見、要望等があれば自由に記入してください。 ＊なお、対応については返信ができませんので、…

回答、ありがとうございました。　地域福祉学科

資料4 卒業生対象ニーズ調査　依頼文章

2021 年 6 月 29 日

卒業生の皆様

新見公立大学

新見公立大学大学院に関するアンケートご協力のお願い

皆さまにおかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より、課題先進地域の現場で「人と地域を創る新見公立大学」の挑戦を温かく見守り、ご支援をいただいていることに感謝を申し上げます。

さて、現在、中山間地域をはじめ地方都市では少子・高齢化と人口減少をはじめ多くの課題に直面しており、課題解決のためにより高度な専門性を身につけた地域福祉人材の育成が求められていると考えています。現在、本学大学院は看護学専攻のみが設置されていますが、健康科学部地域福祉学科の卒業生を輩出する 2023 年を目標に大学院を改組して「地域福祉学専攻（修士課程）」の設置を構想しています。

そこで今回、地域の保健福祉の現場で活躍されている卒業生の皆様のニーズを把握することを目的に、大学院設置に関する調査を計画いたしました。お忙しいところ大変恐縮ですが、ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。

調査は無記名とし、個人が特定されることはございません。データは統計的に処理し、匿名性を保持いたします。また、調査へのご協力は任意であり、ご協力いただけない場合でも不利益は一切ございません。データ分析の結果は大学院設置に関わる書類のみで公表する予定であり、上記倫理的配慮については堅持してまいります。

なお、構想の詳細は、裏面アンケートサイトでご確認ください。また設置構想中ですので内容等が変更になる可能性があります。

〇対象者

新見公立大学、新見公立短期大学、専攻科、新見女子短期大学を卒業された卒業生

・内容は「大学院地域福祉学専攻修士課程」ですが、地域福祉学科以外の幼児教育学科、看護学科、地域看護学専攻科、助産学専攻科の卒業生の方にも調査にご協力いただければ幸いです。

〇回答方法

裏面をご確認ください。

アンケートの回答は Web を通じて行います。Web 回答ができない場合、恐れ入りますが、直接お問い合わせください。

〇回答期間

2021 年 7 月 5 日～7 月 23 日

問い合わせ:
新見公立大学健康科学部　地域福祉学科
准教授　井上　信次
TEL：0867-72-0634　Fax：0867-72-1492
E-Mail ：●●●●@niimi-u.ac.jp

〇このサイトにアクセスしてください

https://forms.gle/VsqPXdB9BBd9DdEh9

お願い

1）上記サイトにアクセスできない場合のみ、以下のサイトにアクセスしてください。

https://customform.jp/form/input/79855/

2）必ずどちらか 1 つのサイトでのみご回答ください。重複してのご回答はしないでください。

大学院設置に関する卒業生調査（新見公立大学）

・以下の内容は設置構想中のものであり、変更になる場合があります。

1）専攻の目標
　中山間地域等のさまざまな地域課題を分析し、その解決にむけて行政や関連団体と協働して主体的、実践的に取り組み、持続的でインクルーシブな中山間地域の未来をデザインし、先駆的に活動できるリーダー的福祉専門職を育成します。

2）養成する人材像
・俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する力をもった福祉実践者/研究者
・解決手法の探索力と立案力を身につけて、次世代の福祉人材を実践的に指導する力をもった福祉実践者
・地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力をもった福祉実践者/研究者

3）設置予定の科目等
中山間地域のインクルーシブで持続的なコミュニティをデザインする福祉専門職の実践的リーダーを育成する科目を設置します。

①俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する調査力を修得する科目群
・高度な健康科学の視点を取得する科目（研究科共通科目）：「健康科学特論」「健康科学英語」
・調査とデータ解析に関する実践力を修得する科目（専門社会調査士科目）:「社会調査実践演習」等
②解決手法の探索・立案力、次世代の福祉人材を実践的に指導する力を修得する科目群
・福祉専門職リーダーの視点から中山間地域等の福祉的課題を分析し、その解決策を持続可能性とインクルーシブの視点から次世代の福祉人材とともに探索・立案する力を修得する科目:「福祉学特論」「共生社会特論」等
③地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力を修得する科目群
・複数の主体との共創型の地域課題の解決力を修得する科目:「コレクティブ・インパクト特論」「中山間地域研究特論」

4）働きながら進学する場合
①長期履修制度により、時間をかけて研究することができます。
②夜間・土曜日開講により、働きながらでも研究ができます。
③オンライン講義により、本学に来なくても一部の講義を受けることができます。
④倉敷市白楽町にあるサテライト教室での講義も併用します。

*必須

地域福祉学専攻 修士課程　修士（地域福祉学）

中山間地域の福祉によるまちづくりに向けて

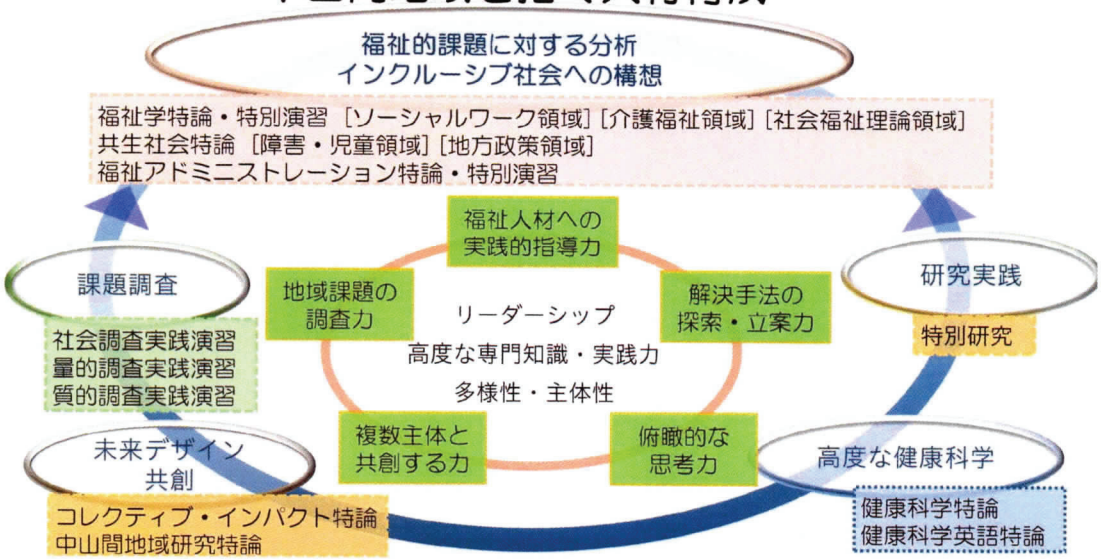
中山間地域の持続可能なコミュニティデザイン

インクルーシブ社会にむけて先駆的に活動する福祉専門職のリーダー

地域課題の調査力、解決手法の探索・立案力、実践的指導力を持つ福祉実践者/研究者

共創の視点からコミュニティをデザインする福祉実践者/研究者

中山間地域を拓く人材育成



中山間地域のインクルーシブで持続的なコミュニティをデザインする
福祉専門職の実践的リーダーを育成する科目を設置します。

①俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する調査力を修得する科目群
- 高度な健康科学の視点を取得する科目（研究科共通科目）：「健康科学特論」「健康科学英語」
- 調査とデータ解析に関する実践力を修得する科目（専門社会調査士科目）：「社会調査実践演習」等

②解決手法の探索・立案力、次世代の福祉人材を実践的に指導する力を修得する科目群
- 福祉専門職リーダーの視点から中山間地域等の福祉的課題を分析し、その解決策を持続可能性とインクルーシブの視点から次世代の福祉人材とともに探索・立案する力を修得する科目:「福祉学特論」「共生社会特論」等

③地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力を修得する科目群
- 複数の主体との共創型の地域課題の解決力を修得する科目:「コレクティブ・インパクト特論」「中山間地域研究特論」

○**共創（コレクティブ・インパクト）**：行政、企業、福祉機関・施設、NPO、地域住民など様々な主体による協働によって社会課題の解決をすること。

○**専門社会調査士**：（一社）社会調査協会が認定する資格。調査企画能力、調査運営管理能力、高度な分析手法など実践能力を有している調査の専門家。

本資料の内容は設置構想中のものであり、変更になる場合があります。

健康科学研究科の目的

新見公立大学大学院健康科学研究科は、学術の理論及び応用を教授研究し、深奥を究め、学術と教育の振興を図り、保健・医療・福祉の増進と地域医療の発展に寄与するとともに、学術研究を創造的に推進する優れた研究者並びに高度で専門的な知識と能力を有する職業人を育成する。

修士課程地域福祉学専攻

中山間地域等のさまざまな地域課題を分析し、その解決にむけて行政や関連団体と協働して主体的、実践的に取り組み、持続的でインクルーシブな中山間地域の未来をデザインし、先駆的に活動できるリーダー的福祉専門職を育成します。

養成する人材像

- 俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する力をもった福祉実践者/研究者
- 解決手法の探索力と立案力を身につけて、次世代の福祉人材を実践的に指導する力をもった福祉実践者
- 地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力をもった福祉実践者/研究者

修了後の進路

医療機関、福祉機関、教育研究機関・シンクタンク、行政機関、NPO/NGOなどの民間団体、小・中・高等学校、進学等

本学大学院に進学するメリット

○臨床、実践の場で起こっている課題を改めて見直し、研究することでその解決に近づくことができます。複雑化する課題の解決ために大学院での研究が不可欠です。
○大学等研究機関で、研究者として活躍することができます。

- 持続可能なコミュニティを構築するために地域福祉実践者のリーダーが求められています。リーダーとしての知識と実践力を身につけることができます。
- リーダーに求められる健康科学の視点からの俯瞰的な思考力、地域課題の調査力、解決手法の探索・立案力、ならびに実践的指導力を身につけることができます。
- 自治体職員等に求められるコミュニティデザインやインクルーシブ社会に関連する知見の修得、ならびに地域福祉に関する実践的研究の場を活用しての地域課題の解決につなげることができます。

働きながら本学大学院に進学する場合

①長期履修制度により、時間をかけて研究することができます。
②夜間・土曜日開講により、働きながらでも研究ができます。
③オンライン講義により、本学に来なくても一部の講義を受けることができます。
④倉敷市白楽町にあるサテライト教室での講義も併用します。

本資料の内容は設置構想中のものであり、変更になる場合があります。

NIIMI UNIVERSITY
新見公立大学 NiU
〒718-8585　岡山県新見市西方1263-2
電話：0867-72-0634（代表）

あなたの性別を一つ選択してください。 *

- ○ 男性
- ○ 女性
- ○ 答えたくない

あなたが住んでいる地域を一つ選択してください。　（岡山県外の場合は、「その他」に具体的な県名をご記入ください） *

- ○ 新見市
- ○ 高梁市
- ○ 美作市
- ○ 真庭市
- ○ 津山市
- ○ 岡山市
- ○ 倉敷市
- ○ 岡山県内、その他の市町村
- ○ その他:

あなたが最終的に卒業した学科を一つ選択してください。 *

- ○ 地域福祉学科
- ○ 幼児教育学科
- ○ 看護学科
- ○ 地域看護学専攻科、助産学専攻科

あなたが最終的に卒業した年度を一つ選択してください。 *

- ○ 1988年度（昭和63年度）以前
- ○ 1989年度（平成元年度）～1993年度（平成5年度）
- ○ 1994年度（平成6年度）～1998年度（平成10年度）
- ○ 1999年度（平成11年度）～2003年度（平成15年度）
- ○ 2004年度（平成16年度）～2008年度（平成20年度）
- ○ 2009年度（平成21年度）～2013年度（平成25年度）
- ○ 2014年度（平成26年度）以降

あなたの最終学歴を一つ選択してください。 *

- ○ 短期大学卒（専修学校卒を含む）
- ○ 4年制大学卒
- ○ 大学院修士課程または博士前期課程修了
- ○ 大学院博士課程修了（単位取得満期退学を含む）
- ○ その他:

福祉・医療に関する以下の資格のなかであなたがお持ちものすべてを選択してください。

- [ ] 社会福祉士
- [ ] 精神保健福祉士
- [ ] 介護福祉士
- [ ] 介護職員初任者研修修了（ホームヘルパー2級修了 を含む）
- [ ] 介護福祉実務者研修修了
- [ ] 介護支援専門員
- [ ] 看護師・准看護師・保健師
- [ ] 作業療法士・機能訓練士・言語療法士・視能訓練士
- [ ] 特にない

現在の状況を一つ選択してください。 *

- ○ 医療施設・社会福祉施設（機関）で働いている
- ○ 医療施設・社会福祉施設（機関）以外の一般（・民間）企業で働いている
- ○ 教育機関で教職員として働いている
- ○ 行政職として働いている
- ○ 働いていない
- ○ その他:

現在の状況を一つ選択してください。 *

- ○ 部下を指導する立場（管理者・役職者を含む）である
- ○ 部下を指導する立場ではない

大学院への進学についてどのように考えていますか。当てはまるもの一つを選択してください。＊短期大学、専門学校卒でも、本学の入学審査により大学院修士課程への受験資格が得られる場合があります。 *

- ○ 大学院（修士課程）へ入学を希望する
- ○ 大学院（修士課程）への入学を検討している
- ○ 大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない
- ○ 大学院（修士課程）への入学を希望しない
- ○ わからない

次へ　　フォームをクリア

大学院設置に関する卒業生調査（新見公立大学）

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

福祉系の大学院への入学を希望、または検討する可能性がある方へ

福祉系の大学院への入学を希望している方にお聞きします。いずれか一つを選択してください。 *

- ○ 本学の大学院
- ○ 他大学の大学院

戻る　次へ　フォームをクリア

大学院設置に関する卒業生調査（新見公立大学）

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

全ての方へ

大学院に入学される場合、その目的として当てはまるものをすべて選択してください。 *

- [ ] 専門知識の取得
- [ ] 資格取得
- [ ] 学位（修士）の取得
- [ ] 特にない・大学院入学を希望していない
- [ ] その他:

大学院入学と就業の形態としてどのようなものを望みますか。当てはまるもの一つ選択してください。 *

- ○ 学業だけに専念する
- ○ 仕事を継続しながらの学修・研究
- ○ 未定・分からない
- ○ 特にない・大学院入学を希望していない
- ○ その他:

本学大学院での学習環境としてどのようなものを望みますか。当てはまるものをすべて選択してください。 *

- [ ] 通信（WEB）を利用した学修・研究
- [ ] 土曜日開講
- [ ] 夜間開講
- [ ] サテライト教室の開講（倉敷市白楽町での開講を予定しています。）
- [ ] 奨学金の充実
- [ ] 3年または4年をかけて修了する長期履修制度（長期履修制度を利用した場合、2年間の学費で3年または4年をかけてゆっくり学修・研究することが可能です。）
- [ ] 特にない・大学院入学を希望していない

本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）にどの程度関心がありますか。現在構想中の内容につきましては、上部のリーフレットをご確認ください。 *

- ○ 関心がある
- ○ やや関心がある
- ○ あまり関心がない
- ○ 関心がない

本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）が設置された場合、受験し入学したいですか。当てはまるものを一つ選択してください。 *

- ○ 開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい
- ○ 開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある
- ○ 開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい
- ○ 開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある
- ○ わからない
- ○ 受験しない

大学院についてご意見、要望等があれば自由に記入してください
については返信ができませんので、申し訳ありませんが、別途、
ださい。

回答

戻る

プレビュー

新見公立大学大学院設置に関する卒業生調査

・以下の内容は設置構想中のものであり、変更になる場合があります。

１）専攻の目標
　中山間地域等のさまざまな地域課題を分析し、その解決にむけて行政や関連団体と協働して主体的、実践的に取り組み、持続的でインクルーシブな中山間地域の未来をデザインし、先駆的に活動できるリーダー的福祉専門職を育成します。

２）養成する人材像
・俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する力をもった福祉実践者/研究者
・解決手法の探索力と立案力を身につけて、次世代の福祉人材を実践的に指導する力をもった福祉実践者
・地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力をもった福祉実践者/研究者

3）設置予定の科目等
中山間地域のインクルーシブで持続的なコミュニティをデザインする福祉専門職の実践的リーダーを育成する科目を設置します。

①俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する調査力を修得する科目群
・高度な健康科学の視点を取得する科目（研究科共通科目）：「健康科学特論」「健康科学英語」
・調査とデータ解析に関する実践力を修得する科目（専門社会調査士科目）:「社会調査実践演習」等
②解決手法の探索・立案力、次世代の福祉人材を実践的に指導する力を修得する科目群
・福祉専門職リーダーの視点から中山間地域等の福祉的課題を分析し、その解決策を持続可能性とインクルーシブの視点から次世代の福祉人材とともに探索・立案する力を修得する科目:「福祉学特論」「共生社会特論」等
③地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力を修得する科目群
・複数の主体との共創型の地域課題の解決力を修得する科目:「コレクティブ・インパクト特論」「中山間地域研究特論」

4）働きながら進学する場合
①長期履修制度により、時間をかけて研究することができます。
②夜間・土曜日開講により、働きながらでも研究ができます。
③オンライン講義により、本学に来なくても一部の講義を受けることができます。
④倉敷市白楽町にあるサテライト教室での講義も併用します。

あなたの性別を一つ選択してください。 必須

○ 女性

○ 答えたくない

あなたが住んでいる地域を一つ選択してください。　（岡山県外の場合は、「その他」に具体的な県名をご記入ください） * 必須

○ 新見市

○ 高梁市

○ 美作市

○ 真庭市

○ 津山市

○ 岡山市

○ 倉敷市

○ 岡山県内、その他の市町村

○ その他

あなたが最終的に卒業した学科を一つ選択してください。 必須

○ 地域福祉学科

○ 幼児教育学科

○ 看護学科

○ 地域看護学専攻科、助産学専攻科

あなたが最終的に卒業した年度を一つ選択してください。 必須

○ 1988年度（昭和63年度）以前

○ 1989年度（平成元年度）～1993年度（平成5年度）

○ 1994年度（平成6年度）～1998年度（平成10年度）

○ 1999年度（平成11年度）～2003年度（平成15年度）

○ 2004年度（平成16年度）～2008年度（平成20年度）

○ 2009年度（平成21年度）～2013年度（平成25年度）

あなたの最終学歴を一つ選択してください。 必須

- ◯ 短期大学卒（専修学校卒を含む）
- ◯ 4年制大学卒
- ◯ 大学院修士課程または博士前期課程修了
- ◯ 大学院博士課程修了（単位取得満期退学を含む）
- ◯ その他

福祉・医療に関する以下の資格のなかであなたがお持ちものすべてを選択してください。 必須

- ◯ 社会福祉士
- ◯ 精神保健福祉士
- ◯ 介護福祉士
- ◯ 介護職員初任者研修修了（ホームヘルパー2級修了 を含む）
- ◯ 介護福祉実務者研修修了
- ◯ 介護支援専門員
- ◯ 看護師・准看護師・保健師
- ◯ 作業療法士・機能訓練士・言語療法士・視能訓練士
- ◯ 特にない

現在の状況を一つ選択してください。 必須

- ◯ 医療施設・社会福祉施設（機関）で働いている
- ◯ 医療施設・社会福祉施設（機関）以外の一般（・民間）企業で働いている
- ◯ 教育機関で教職員として働いている
- ◯ 行政職として働いている
- ◯ 働いていない
- ◯ その他

○ 部下を指導する立場（管理者・役職者を含む）である

○ 部下を指導する立場ではない

大学院への進学についてどのように考えていますか。当てはまるものを一つ選択してください。 必須

＊短期大学、専門学校卒でも、本学の入学審査により大学院修士課程への受験資格が得られる場合があります。

□ 大学院（修士課程）へ入学を希望する

□ 大学院（修士課程）への入学を検討している

□ 大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない

□ 大学院（修士課程）への入学を希望しない

□ わからない

大学院への入学を希望または検討している方（可能性を含む）へお聞きします。大学院への入学を希望、または検討する可能性がある大学院はどちらですか。いずれか一つを選択してください。 任意

○ 福祉系の大学院

○ 福祉系以外の大学院

福祉系の大学院への入学を希望、または検討する可能性がある方にお聞きします。いずれか一つを選択してください。 任意

○ 本学の大学院への入学を希望する

○ 他大学の大学院への入学を希望する

大学院に入学される場合、その目的として当てはまるものをすべて選択してください。 必須

○ 専門知識の取得

○ 資格取得

○ 学位（修士）の取得

○ 特にない・大学院入学を希望していない

○ その他

○ 学業だけに専念する

○ 仕事を継続しながらの学修

○ 未定・分からない

○ 特にない・大学院入学を希望していない

○ その他

本学大学院での学習環境としてどのようなものを望みますか。当てはまるものをすべて選択してください。 必須

□ 通信（WEB）を利用した学修・研究

□ 土曜日開講

□ 夜間開講

□ サテライト教室の開講（倉敷市白楽町での開講を予定しています。）

□ 奨学金の充実

□ 3年または4年をかけて修了する長期履修制度（長期履修制度を利用した場合、2年間の学費で3年または4年をかけてゆっくり学修・研究することが可能です。）

□ 特にない・大学院入学を希望していない

本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）にどの程度関心がありますか。当てはまるもの一つ選択してください。 必須

○ 関心がある

○ やや関心がある

○ あまり関心がない

○ 関心がない

本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）が設置された場合、受験し入学したいですか。当てはまるもの一つ選択してください。 必須

○ 開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい

○ 開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある

○ 開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい

プレビュー

◯ わからない

◯ 受験しない

大学院についてご意見、要望等があれば自由に記入してください。 ＊なお、対応については返信ができませんので、申し訳ありませんが、別途、お問い合わせください。 任意

送信する

2021 年 7 月吉日

関係各位

新見公立大学

新見公立大学大学院に関するアンケートご協力のお願い

皆さまにおかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より、課題先進地域の現場で「人と地域を創る新見公立大学」の挑戦を温かく見守り、ご支援をいただいていることに感謝を申し上げます。

さて、現在、中山間地域をはじめ地方都市では少子・高齢化と人口減少をはじめ多くの課題に直面しており、課題解決のためにより高度な専門性を身につけた地域福祉人材の育成が求められていると考えています。現在、本学大学院は看護学専攻のみが設置されていますが、健康科学部地域福祉学科の卒業生を輩出する 2023 年を目標に大学院を改組して「地域福祉学専攻（修士課程）」の設置を構想しています。

そこで今回、地域の保健福祉の現場で活躍されている皆様のニーズを把握することを目的に、大学院設置に関する調査を計画いたしました。お忙しいところ大変恐縮ですが、ぜひご協力くださいますようお願い申し上げます。

調査は無記名とし、個人が特定されることはございません。データは統計的に処理し、匿名性を保持いたします。また、調査へのご協力は任意であり、ご協力いただけない場合でも不利益は一切ございません。データ分析の結果は大学院設置に関わる書類のみで公表する予定であり、上記倫理的配慮については堅持してまいります。

なお、構想の詳細は、裏面アンケートサイトでご確認ください。また設置構想中ですので内容等が変更になる可能性があります。

〇回答方法

裏面をご確認ください。

アンケートの回答は Web を通じて行います。回答できない場合、恐れ入りますが、お問い合わせください。

〇回答期間

2021 年 7 月 5 日～8 月 31 日

（可能なかぎり 7 月中にご回答をお願いします）

問い合わせ:
新見公立大学健康科学部　地域福祉学科
准教授　井上　信次
TEL：0867-72-0634 Fax：0867-72-1492
E-Mail ：●●●●@niimi-u.ac.jp

〇このサイトにアクセスしてください

https://forms.gle/QkVNagKZGhX6tDu38

お願い

1）上記サイトにアクセスできない場合のみ、以下のサイトにアクセスしてください。

https://customform.jp/form/input/80077/

2）必ずどちらか 1 つのサイトでのみご回答ください。重複してのご回答はしないでください。

新見公立大学大学院改組に関する調査

・以下の内容は設置構想中のものであり、変更になる場合があります。

１）専攻の目標
　中山間地域等のさまざまな地域課題を分析し、その解決にむけて行政や関連団体と協働して主体的、実践的に取り組み、持続的でインクルーシブな中山間地域の未来をデザインし、先駆的に活動できるリーダー的福祉専門職を育成します。

２）養成する人材像
・俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する力をもった福祉実践者/研究者
・解決手法の探索力と立案力を身につけて、次世代の福祉人材を実践的に指導する力をもった福祉実践者
・地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力をもった福祉実践者/研究者

3）設置予定の科目等
中山間地域のインクルーシブで持続的なコミュニティをデザインする福祉専門職の実践的リーダーを育成する科目を設置します。

①俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する調査力を修得する科目群
・高度な健康科学の視点を取得する科目（研究科共通科目）：「健康科学特論」「健康科学英語」
・調査とデータ解析に関する実践力を修得する科目（専門社会調査士科目）:「社会調査実践演習」等
②解決手法の探索・立案力、次世代の福祉人材を実践的に指導する力を修得する科目群
・福祉専門職リーダーの視点から中山間地域等の福祉的課題を分析し、その解決策を持続可能性とインクルーシブの視点から次世代の福祉人材とともに探索・立案する力を修得する科目:「福祉学特論」「共生社会特論」等
③地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力を修得する科目群
・複数の主体との共創型の地域課題の解決力を修得する科目:「コレクティブ・インパクト特論」「中山間地域研究特論」

4）働きながら進学する場合
①長期履修制度により、時間をかけて研究することができます。
②夜間・土曜日開講により、働きながらでも研究ができます。
③オンライン講義により、本学に来なくても一部の講義を受けることができます。
④倉敷市白楽町にあるサテライト教室での講義も併用します。

*必須

地域福祉学専攻 修士課程　修士（地域福祉学）

中山間地域の福祉によるまちづくりに向けて

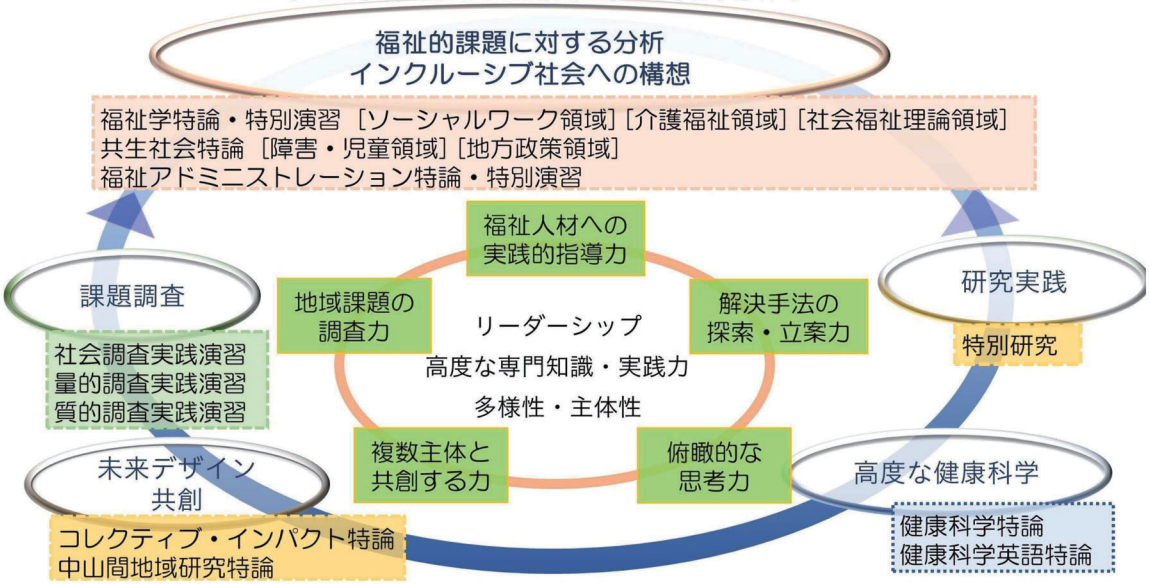
中山間地域の持続可能なコミュニティデザイン

インクルーシブ社会にむけて先駆的に活動する福祉専門職のリーダー

地域課題の調査力、解決手法の探索・立案力、実践的指導力を持つ福祉実践者/研究者

共創の視点からコミュニティをデザインする福祉実践者/研究者

中山間地域を拓く人材育成



中山間地域のインクルーシブで持続的なコミュニティをデザインする
福祉専門職の実践的リーダーを育成する科目を設置します。

①俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する調査力を修得する科目群
- 高度な健康科学の視点を取得する科目（研究科共通科目）：「健康科学特論」「健康科学英語」
- 調査とデータ解析に関する実践力を修得する科目（専門社会調査士科目）：「社会調査実践演習」等

②解決手法の探索・立案力、次世代の福祉人材を実践的に指導する力を修得する科目群
- 福祉専門職リーダーの視点から中山間地域等の福祉的課題を分析し、その解決策を持続可能性とインクルーシブの視点から次世代の福祉人材とともに探索・立案する力を修得する科目:「福祉学特論」「共生社会特論」等

③地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力を修得する科目群
- 複数の主体との共創型の地域課題の解決力を修得する科目:「コレクティブ・インパクト特論」「中山間地域研究特論」

○共創（コレクティブ・インパクト）：行政、企業、福祉機関・施設、NPO、地域住民など様々な主体による協働によって社会課題の解決をすること。
○専門社会調査士：（一社）社会調査協会が認定する資格。調査企画能力、調査運営管理能力、高度な分析手法など実践能力を有している調査の専門家。

本資料の内容は設置構想中のものであり、変更になる場合があります。

健康科学研究科の目的

新見公立大学大学院健康科学研究科は、学術の理論及び応用を教授研究し、深奥を究め、学術と教育の振興を図り、保健・医療・福祉の増進と地域医療の発展に寄与するとともに、学術研究を創造的に推進する優れた研究者並びに高度で専門的な知識と能力を有する職業人を育成する。

修士課程地域福祉学専攻

中山間地域等のさまざまな地域課題を分析し、その解決にむけて行政や関連団体と協働して主体的、実践的に取り組み、持続的でインクルーシブな中山間地域の未来をデザインし、先駆的に活動できるリーダー的福祉専門職を育成します。

養成する人材像

- 俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する力をもった福祉実践者/研究者
- 解決手法の探索力と立案力を身につけて、次世代の福祉人材を実践的に指導する力をもった福祉実践者
- 地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力をもった福祉実践者/研究者

修了後の進路

医療機関、福祉機関、教育研究機関・シンクタンク、行政機関、NPO/NGOなどの民間団体、小・中・高等学校、進学等

本学大学院に進学するメリット

〇臨床、実践の場で起こっている課題を改めて見直し、研究することでその解決に近づくことができます。複雑化する課題の解決ために大学院での研究が不可欠です。
〇大学等研究機関で、研究者として活躍することができます。

- 持続可能なコミュニティを構築するために地域福祉実践者のリーダーが求められています。リーダーとしての知識と実践力を身につけることができます。
- リーダーに求められる健康科学の視点からの俯瞰的な思考力、地域課題の調査力、解決手法の探索・立案力、ならびに実践的指導力を身につけることができます。
- 自治体職員等に求められるコミュニティデザインやインクルーシブ社会に関連する知見の修得、ならびに地域福祉に関する実践的研究の場を活用しての地域課題の解決につなげることができます。

働きながら本学大学院に進学する場合

①長期履修制度により、時間をかけて研究することができます。
②夜間・土曜日開講により、働きながらでも研究ができます。
③オンライン講義により、本学に来なくても一部の講義を受けることができます。
④倉敷市白楽町にあるサテライト教室での講義も併用します。

本資料の内容は設置構想中のものであり、変更になる場合があります。

NIIMI UNIVERSITY
新見公立大学 NiU
〒718-8585　岡山県新見市西方1263-2
電話：0867-72-0634（代表）

あなたの性別を一つ選択してください。 *

- 男性
- 女性
- 答えたくない

あなたが住んでいる地域を一つ選択してください。　（岡山県外の場合は、「その他」に具体的な県名をご記入ください） *

- 新見市
- 高梁市
- 美作市
- 真庭市
- 津山市
- 岡山市
- 倉敷市
- 岡山県内、その他の市町村
- その他:

あなたの年齢を一つ選択してください。 *

- 10歳代
- 20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳代
- 60歳代以上

あなたの最終学歴を一つ選択してください。 *

- ○ 高等学校卒
- ○ 短期大学卒（専修学校卒を含む）
- ○ 4年制大学卒
- ○ 大学院修士課程または博士前期課程修了
- ○ 大学院博士課程修了（単位取得満期退学を含む）
- ○ その他:

福祉・医療に関する以下の資格のなかであなたがお持ちものすべてを選択してください。 *

- ☐ 社会福祉士
- ☐ 精神保健福祉士
- ☐ 介護福祉士
- ☐ 介護職員初任者研修修了（ホームヘルパー2級修了 を含む）
- ☐ 介護福祉実務者研修修了
- ☐ 介護支援専門員
- ☐ 看護師・准看護師・保健師
- ☐ 作業療法士・機能訓練士・言語療法士・視能訓練士
- ☐ 特にない

現在の状況を一つ選択してください。 *

- ○ 医療施設・社会福祉施設（機関）で働いている
- ○ 医療施設・社会福祉施設（機関）以外の一般（・民間）企業で働いている
- ○ 教育機関で教職員として働いている
- ○ 行政職として働いている
- ○ 働いていない
- ○ その他:

現在の状況を一つ選択してください。 *

- ○ 部下を指導する立場（管理者・役職者を含む）である
- ○ 部下を指導する立場ではない

あなたは本学地域福祉学科の実習施設の方ですか。一つを選択してください。 *

- ○ 実習施設である
- ○ 実習施設ではない

大学院への進学についてどのように考えていますか。当てはまるものを一つ選択してください。＊短期大学、専門学校卒でも、本学の入学審査により大学院修士課程への受験資格が得られる場合があります。 *

- ○ 大学院（修士課程）へ入学を希望する
- ○ 大学院（修士課程）への入学を検討している
- ○ 大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない
- ○ 大学院（修士課程）への入学を希望しない
- ○ わからない

新見公立大学大学院改組に関する調査

*必須

大学院への入学を希望または検討している方へ

大学院への入学を希望、または検討する可能性がある大学院はどちらですか。いずれか一つを選択してください。 * *

- ○ 福祉系の大学院
- ○ 福祉系以外の大学院

戻る　次へ　フォームをクリア

新見公立大学大学院改組に関する調査

福祉系の大学院への入学を希望、または検討する可能性がある方へ

福祉系の大学院への入学を希望している方にお聞きします。いずれか一つを選択してください。

- ○ 本学の大学院
- ○ 他大学の大学院

戻る　次へ　フォームをクリア

新見公立大学大学院改組に関する調査

*必須

全ての方へ

大学院に入学される場合、その目的として当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] 専門知識の取得
- [ ] 資格取得
- [ ] 学位（修士）の取得
- [ ] 特にない・大学院入学を希望していない
- [ ] その他:

大学院入学と就業の形態としてどのようなものを望みますか。当てはまるもの一つ選択してください。

- [ ] 学業だけに専念する
- [ ] 仕事を継続しながらの学修・研究
- [ ] 未定・分からない
- [ ] 特にない・大学院入学を希望していない
- [ ] その他:

本学大学院での学習環境としてどのようなものを望みますか。当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] 通信（WEB）を利用した学修・研究
- [ ] 土曜日開講
- [ ] 夜間開講
- [ ] サテライト教室の開講（倉敷市白楽町での開講を予定しています。）
- [ ] 奨学金の充実
- [ ] 3年または4年をかけて修了する長期履修制度（長期履修制度を利用した場合、2年間の学費で3年または4年をかけてゆっくり学修・研究することが可能です。）
- [ ] 特にない・大学院入学を希望していない

本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）にどの程度関心がありますか。当てはまるもの一つ選択してください。 *

- ○ 関心がある
- ○ やや関心がある
- ○ あまり関心がない
- ○ 関心がない

本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）が設置された場合、受験し入学したいですか。当てはまるものを一つ選択してください。 *

- ○ 開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい
- ○ 開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある
- ○ 開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい
- ○ 開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある
- ○ わからない
- ○ 受験しない

大学院についてご意見、要望等があれば自由に記入してください。 ＊なお、対応については返信ができませんので、申し訳ありませんが、別途、お問い合わせください。

回答を入力

プレビュー

新見公立大学大学院設置に関する調査

・以下の内容は設置構想中のものであり、変更になる場合があります。

１）専攻の目標
　中山間地域等のさまざまな地域課題を分析し、その解決にむけて行政や関連団体と協働して主体的、実践的に取り組み、持続的でインクルーシブな中山間地域の未来をデザインし、先駆的に活動できるリーダー的福祉専門職を育成します。

２）養成する人材像
・俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する力をもった福祉実践者/研究者
・解決手法の探索力と立案力を身につけて、次世代の福祉人材を実践的に指導する力をもった福祉実践者
・地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力をもった福祉実践者/研究者

3）設置予定の科目等
中山間地域のインクルーシブで持続的なコミュニティをデザインする福祉専門職の実践的リーダーを育成する科目を設置します。

①俯瞰的な思考力をもって、中山間地域等のさまざまな地域課題を調査する調査力を修得する科目群
・高度な健康科学の視点を取得する科目（研究科共通科目）：「健康科学特論」「健康科学英語」
・調査とデータ解析に関する実践力を修得する科目（専門社会調査士科目）:「社会調査実践演習」等
②解決手法の探索・立案力、次世代の福祉人材を実践的に指導する力を修得する科目群
・福祉専門職リーダーの視点から中山間地域等の福祉的課題を分析し、その解決策を持続可能性とインクルーシブの視点から次世代の福祉人材とともに探索・立案する力を修得する科目:「福祉学特論」「共生社会特論」等
③地域課題の解決にむけて、コミュニティのデザインを多くの主体と共創する力を修得する科目群
・複数の主体との共創型の地域課題の解決力を修得する科目:「コレクティブ・インパクト特論」「中山間地域研究特論」

4）働きながら進学する場合
①長期履修制度により、時間をかけて研究することができます。
②夜間・土曜日開講により、働きながらでも研究ができます。
③オンライン講義により、本学に来なくても一部の講義を受けることができます。
④倉敷市白楽町にあるサテライト教室での講義も併用します。

あなたの性別を一つ選択してください。 必須

- ◯ 男性
- ◯ 女性
- ◯ 答えたくない

あなたが住んでいる地域を一つ選択してください。 必須

- ◯ 新見市
- ◯ 高梁市
- ◯ 美作市
- ◯ 真庭市
- ◯ 津山市
- ◯ 岡山市
- ◯ 岡山県内、その他の市町村
- ◯ その他

あなたの年齢を一つ選択してください。 必須

- ◯ 10歳代
- ◯ 20歳代
- ◯ 30歳代
- ◯ 40歳代
- ◯ 50歳代
- ◯ 60歳代以上

あなたの最終学歴を一つ選択してください。 必須

- ◯ 高等学校卒
- ◯ 短期大学卒（専修学校卒を含む）
- ◯ 4年制大学卒（学士）
- ◯ 大学院修士課程または博士前期課程修了
- ◯ 大学院博士課程修了（単位取得満期退学を含む）
- ◯ その他

福祉・医療に関する以下の資格のなかであなたがお持ちものすべてを選択してください。 必須

- ◯ 社会福祉士
- ◯ 精神保健福祉士
- ◯ 介護福祉士
- ◯ 介護職員初任者研修修了（ホームヘルパー2級を含む）
- ◯ 介護福祉士実務者研修修了
- ◯ 介護支援専門員
- ◯ 看護師・准看護師・保健師
- ◯ 作業療法士・機能訓練士・言語療法士・視能訓練士
- ◯ 特にない

現在の状況を一つ選択してください。 必須

- ◯ 医療施設・社会福祉施設（機関）で働いている
- ◯ 医療施設・社会福祉施設（機関）以外の一般（・民間）企業で働いている
- ◯ 教育機関で教職員として働いている
- ◯ 行政職として働いている
- ◯ 働いていない
- ◯ その他

現在の状況を一つ選択してください。 必須

- ◯ 部下を指導する立場（管理者・役職者を含む）である
- ◯ 部下を指導する立場ではない

あなたは本学地域福祉学科の実習施設の方ですか。一つを選択してください。 必須

- ◯ 実習施設である
- ◯ 実習施設ではない

合があります。 必須

- ☐ 大学院（修士課程）へ入学を希望する
- ☐ 大学院（修士課程）への入学を検討している
- ☐ 大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない
- ☐ 大学院（修士課程）への入学を希望しない
- ☐ わからない

大学院への入学を希望または検討している方（可能性を含む）へお聞きします。大学院への入学を希望、または検討する可能性がある大学院はどちらですか。いずれか一つを選択してください。 任意

- ○ 福祉系の大学院
- ○ 福祉系以外の大学院

福祉系の大学院への入学を希望している方にお聞きします。いずれか一つを選択してください 任意

- ○ 本学の大学院への入学を希望する
- ○ 他大学の大学院への入学を希望する

大学院に入学される場合、その目的として当てはまるものをすべて選択してください。 必須

- ☐ 専門知識の取得
- ☐ 資格取得
- ☐ 学位（修士）の取得
- ☐ 特にない・大学院入学を希望していない
- ☐ その他

大学院入学と就業の形態としてどのようなものを望みますか。当てはまるもの一つ選択してください。 必須

- ☐ 学業だけに専念する
- ☐ 仕事を継続しながらの学修
- ☐ 未定・分からない
- ☐ 特にない・大学院入学を希望していない

本学大学院での学習環境としてどのようなものを望みますか。当てはまるものをすべて選択してください。 必須

- ☐ 本学大学院での学習環境としてどのようなものを望みますか。いくつでも選択可能です。
- ☐ 通信（WEB）を利用した学修・研究
- ☐ 土曜日開講
- ☐ 夜間開講
- ☐ サテライト教室の開講（倉敷市白楽町での開講を予定しています。）
- ☐ 奨学金の充実
- ☐ 3年または4年をかけて修了する長期履修制度（長期履修制度を利用した場合、2年間の学費で3年または4年をかけてゆっくり学修・研究することが可能です。）
- ☐ 特にない・大学院入学を希望していない

本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）にどの程度関心がありますか。当てはまるもの一つ選択してください。 必須

- ○ 関心がある
- ○ やや関心がある
- ○ あまり関心がない
- ○ 関心がない

本学大学院地域福祉学専攻修士課程（設置構想中）が設置された場合、受験し入学したいですか。当てはまるもの一つ選択してください。 必須

- ○ 開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい
- ○ 開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある
- ○ 開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい
- ○ 開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある
- ○ わからない
- ○ 受験しない

大学院についてご意見、要望等があれば自由に記入してください。 ＊なお、対応については返信ができませんので、申し訳ありませんが、別途、お問い合わせください。 任意

プレビュー

送信する

対象のフォームは、アンケートフォーム作成サービス CustomForm （無償版） を使用して作成されたものです。
フォームの内容に関しては、当サイトが内容を確認しているわけではありません。

入力した内容を送信いただく前に**こちら（別ウィンドウが開きます）**をご確認ください

不正行為の報告

Powered by CustomForm

資料10 修了者の採用に関する意向調査　依頼文章

事業所長・施設長様

2021 年 12 月 1 日

新見公立大学大学院健康科学研究科地域福祉学科専攻（仮称）

修士課程修了者の採用に関する調査ご協力のお願い

皆さまにおかれましてはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。 さて、現在、中山間地域をはじめ地方都市では人口減少をはじめ多くの課題が山積しております。これらの解決のためには、より高度な専門性を身につけた人材の育成が必要であると考えております。現在、新見公立大学では、看護学専攻大学院を改組し、2023 年度に「大学院地域福祉学専攻修士課程」の設置を構想しております。

そこで今回、福祉事業所の管理者様の採用ニーズをお聞かせいただきたく、大学院設置に関する調査を計画いたしました。調査結果は文部科学省への設置認可申請にのみ活用いたします。なお、貴法人からいただいた回答は統計的に処理し、個別の情報が公表されることはありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、ご意見頂戴したくご協力よろしくお願い申し上げます。

対象者：法人施設長・事業所長様
配布手段：郵送又は訪問
回収方法：質問紙アンケート回答後、同封の返信用封筒にてお送り願います。

回答期限：**2021年12月10日**

問い合わせ:
新見公立大学健康科学部　地域福祉学科
TEL：0867-72-0634 Fax：0867-72-1492
E-Mail　：●●●●@niimi-u.ac.jp
三上ゆみ

新見公立大学大学院健康科学研究科地域福祉学科専攻修士課程（仮称）

修了者の採用に関する調査ご協力のお願い

該当する番号に〇を付けてください.

問1　貴法人の所在地を教えてください。

①　新見市内　　②　新見市を除く岡山県内　③　県外（　　）県

問2　貴法人の運営形態を教えてください。

①　社会福祉法人　②医療法人　③株式・有限会社　④その他（　　）

問3　回答者様の役職を教えてください。

①事業管理者　②人事担当者　③その他（　　）

問4　貴法人全体の職員数を教えてください。

（　　）人

問5　貴法人の職員のうち、福祉系大学院の修士課程修了者数を教えてください。

①　0 人　②1 人　③2 人　④3 人　⑤4人　⑥5人　⑦それ以上（　　）人

問6　貴法人の職員のうち、福祉系大学院の博士課程修了者数を教えてください。

①　0 人　②1 人　③2 人　④3 人　⑤4人　⑥5人　⑦それ以上（　　）人

問7　福祉系大学院修了者の採用について教えてください。

①積極的に採用したい　②どちらかというと採用したい　③どちらとも言えない
④どちらかというと望まない　⑤望まない

問 8　本学大学院地域福祉学専攻修士課程において育成しようとしている能力（資質）は、貴法人に役立つとお考えですか。

①とても役に立つ　②役に立つ　③あまり役立たない　④役立たない

問 9. 貴法人では、本学大学院地域福祉学専攻修士課程の修了者を採用したいと思われますか。

①採用したい　②採用する方向で考えたい　③修了者の状況をみて考えたい　④採用予定はない

問 10　貴法人では、貴職員に対して本学大学院地域福祉学専攻修士課程への進学を勧めたいと思われますか。

①勧めたい　②勧める方向で考えたい　③勧める可能性がある　④法人としては勧めない

裏面へ続きます。

問 11　採用後、大学院修了者に求めることは何ですか。

①専門性を活かした業務　　②リーダーとしての役割　③教育的役割　④その他（　　）

問 12　貴法人の大学院修了者への優遇措置はありますか。

①優遇措置がある　②優遇措置はない　③検討中である　④今後検討する　⑤検討する予定はない

問 13　職員が、働きながら大学院を希望した場合、可能な支援体制を教えてください。

①支援制度がある　　②支援制度はない　③検討中　④今後検討する

ご意見・ご要望などご自由にお書きください。

ご回答有難うございました。

在学生対象ニーズ調査　結果

1. 調査目的

本調査は、本学で改組予定の健康科学研究科地域福祉学専攻（修士課程）の基礎となる学部である本学健康科学部地域福祉学学科、および同学部健康保育学科に在籍する学生（1~3 年生）の大学院への進学ニーズの調査を目的に実施したものである。

2. 調査方法

本学イントラネットである、UNIVERSAL　PASSPORT を通じて、インターネットによる調査を実施した。

3. 調査対象

本学健康科学部地域福祉学学科、および同学部健康保育学科に在籍する学生（1~3 年生）319 人

4. 調査期間

地域福祉学学科（1~3 年生）および健康保育学科（1～2 年生）　令和 3 年 10 月 1 日～10 月 31 日
健康保育学科　令和 3 年 11 月 1 日～11 月 12 日

5.　回答者数

	対象者数	回答者数	回答率
地域福祉学科			
3 年生	50	45	90.0%
2 年生	53	34	64.2%
1 年生	59	41	69.5
健康保育学科			
3 年生	43	33	76.7%
2 年生	57	25	43.9%
1 年生	53	37	69.8%
計	315	215	68.3%

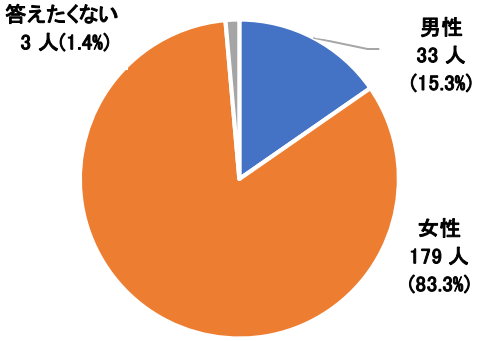
6. 調査結果まとめ

回答者 215 人中 24 人（11.2%）が「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」もしくは「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」と回答した。さらに、15 人（7.0%）が「開設後（・卒業後）、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい」もしくは「開設後（・卒業後）、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある」と回答した。

[調査結果]＊単位:人　括弧内は%

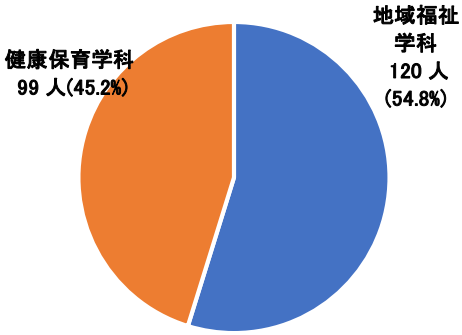
1. 性別

	1 年生		2 年生		3 年生		合計	
男性	13	(39.4)	10	(30.3)	10	(30.3)	33	(100.0)
女性	64	(35.8)	49	(27.4)	66	(36.9)	179	(100.0)
答えたくない	1	(33.3)	0	(0.0)	2	(66.7)	3	(100.0)
計	78	(36.3)	59	(27.4)	78	(36.3)	215	(100.0)



2. 学科

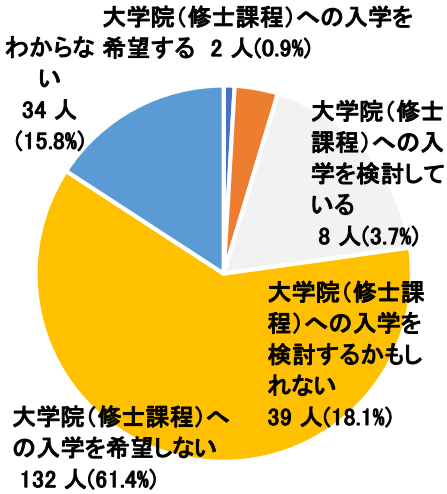
	1 年生		2 年生		3 年生		合計	
地域福祉学科	41	(34.2)	34	(28.3)	45	(37.5)	120	(100.0)
健康保育学科	37	(38.9)	25	(26.3)	33	(34.7)	95	(100.0)
計	78	(36.3)	59	(27.4)	78	(36.3)	215	(100.0)



回答者の属性は、1 年生 78 人(36.3%)、2 年生が 59 人(27.4%)、3 年生が 82 人(36.3%)であった。80%以上が女性であった。地域福祉学科が過半数であった。

3. 大学院進学希望

	1 年生		2 年生		3 年生		合計	
大学院(修士課程)への入学を希望する	1	(50.0)	0	(0.0)	1	(50.0)	2	(100.0)
大学院(修士課程)への入学を検討している	2	(25.0)	2	(25.0)	4	(50.0)	8	(100.0)
大学院(修士課程)への入学を検討するかもしれない	18	(46.2)	12	(30.8)	9	(23.1)	39	(100.0)
大学院(修士課程)への入学を希望しない	39	(29.5)	36	(27.3)	57	(43.2)	132	(100.0)
わからない	18	(52.9)	9	(26.5)	7	(20.6)	34	(100.0)
計	78	(36.3)	59	(27.4)	78	(36.3)	215	(100.0)

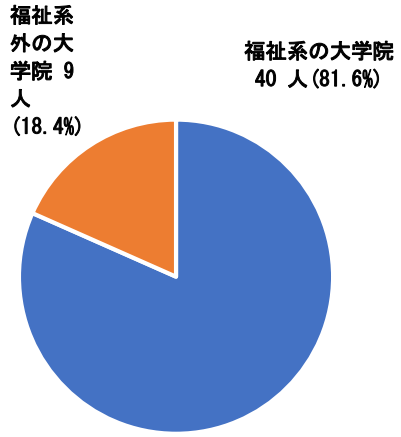


「大学院(修士課程)への入学を希望する」「大学院(修士課程)への入学を検討している」「大学院(修士課程)への入学を検討するかもしれない」と回答した人は、1 年生 21 人(26.9%)、2 年生 14 人(23.7%)、3 年生 14 人(17.9%)であった。

3SQ-1. 希望する場合の大学院

「大学院(修士課程)への入学を希望する」
「大学院(修士課程)への入学を検討している」
「大学院(修士課程)への入学を検討するかもしれない」 を回答した人のみ

	1 年生		2 年生		3 年生		合計	
福祉系の大学院	19	(47.5)	10	(25.0)	11	(27.5)	40	(100.0)
福祉系外の大学院	2	(22.2)	4	(44.4)	3	(33.3)	9	(100.0)
計	21	(42.9)	14	(28.6)	14	(28.6)	49	(100.0)

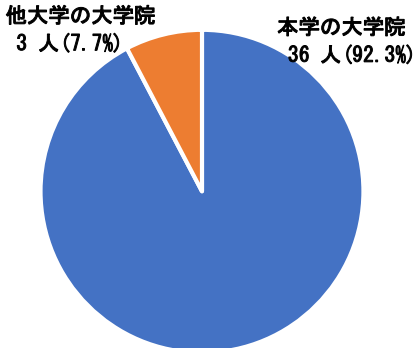


「大学院(修士課程)への入学を希望する」「大学院(修士課程)への入学を検討している」「大学院(修士課程)への入学を検討するかもしれない」のいずれかを回答した 49 人の内、福祉系の大学院を希望すると回答した人は 40 人(81.6%)であった。

3SQ-2. 福祉系を希望する場合の大学院

「福祉系の大学院」を回答した人のみ

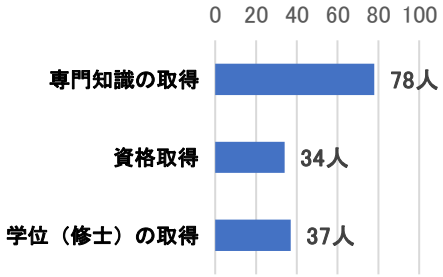
	1 年生		2 年生		3 年生		合計	
本学の大学院	17	(47.2)	10	(27.8)	9	(25.0)	36	(100.0)
他大学の大学院	1	(33.3)	0	(0.0)	2	(66.7)	3	(100.0)
計	18	(46.2)	10	(25.6)	11	(28.2)	39	(100.0)



「福祉系の大学院」を希望すると回答した 39 人の内、本学の大学院を希望する回答した人は、36 人(92.3%)であった。

4. 大学院進学目的(複数回答)

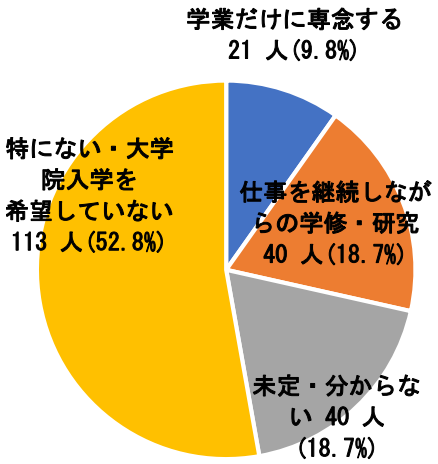
	1 年生		2 年生		3 年生		合計	
専門知識の取得	41	(52.6)	14	(17.9)	23	(29.5)	78	(100.0)
資格取得	22	(64.7)	7	(20.6)	5	(14.7)	34	(100.0)
学位(修士)の取得	17	(45.9)	7	(18.9)	13	(35.1)	37	(100.0)
特にない・大学院入学を希望していない	33	(27.7)	36	(30.3)	50	(42.0)	119	(100.0)
その他:	2	(28.6)	3	(42.9)	2	(28.6)	7	(100.0)



大学院の進学目的として「専門知識の取得」が 78 人(36.3%)と最も多かった。

5. 大学院進学形態

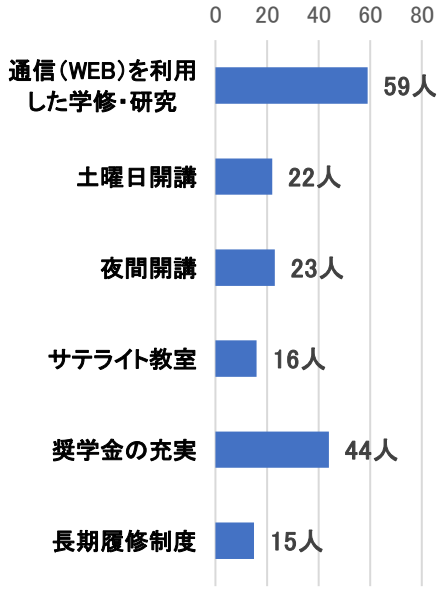
	1 年生	2 年生	3 年生	合計
学業だけに専念する	11 (52.4)	6 (28.6)	4 (19.0)	21 (100.0)
仕事を継続しながらの学修・研究	17 (42.5)	9 (22.5)	14 (35.0)	40 (100.0)
未定・分からない	16 (40.0)	13 (32.5)	11 (27.5)	40 (100.0)
特にない・大学院入学を希望していない	34 (30.1)	30 (26.5)	49 (43.4)	113 (100.0)
その他	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
計	78 (36.3)	59 (27.4)	78 (36.3)	215 (100.0)



「学業だけに専念する」が 11 人（14.1%）、「仕事と継続しながらの学修・研究」が 17 人（21.8%）であった。

6. 希望する環境（複数回答）

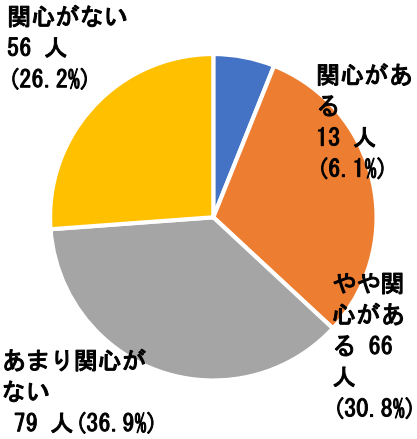
	1 年生	2 年生	3 年生	合計
通信（WEB）を利用した学修・研究	25 (42.4)	15 (25.4)	19 (32.2)	59 (100.0)
土曜日開講	11 (50.0)	2 (9.1)	9 (40.9)	22 (100.0)
夜間開講	13 (56.5)	2 (8.7)	8 (34.8)	23 (100.0)
サテライト教室の開講	8 (50.0)	3 (18.8)	5 (31.3)	16 (100.0)
奨学金の充実	23 (52.3)	7 (15.9)	14 (31.8)	44 (100.0)
3 年または 4 年をかけて修了する長期履修制度	11 (73.3)	1 (6.7)	3 (20.0)	15 (100.0)
特にない・大学院入学を希望していない	32 (26.7)	38 (31.7)	50 (41.7)	120 (100.0)



希望する学修・研究環境として「通信（WEB）を利用した学修・研究」が 59 人（27.4%）、「奨学金の充実」が 44 人(20.5%)であった。

7.　修士課程地域福祉学専攻への関心

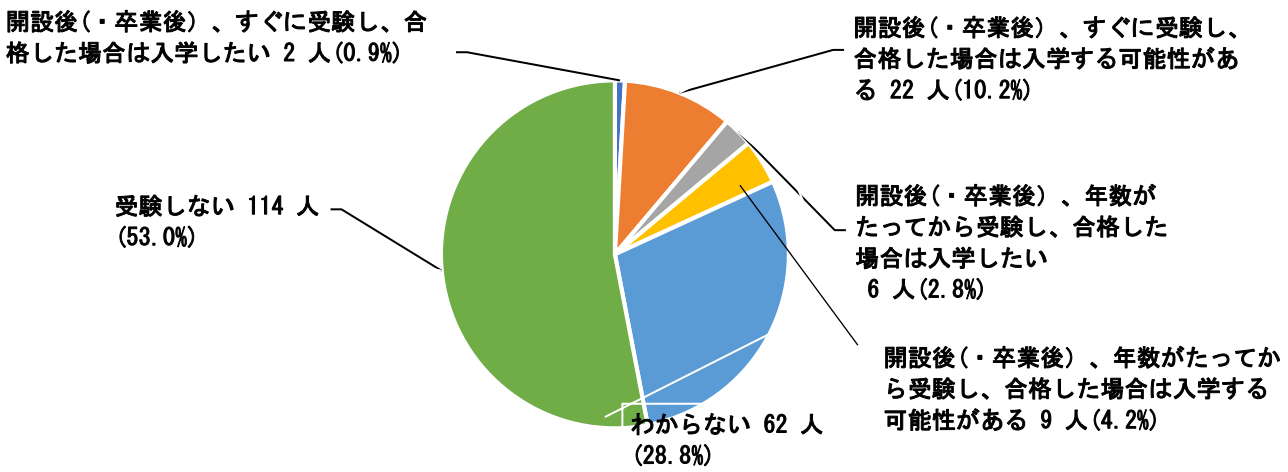
	1 年生	2 年生	3 年生	合計
関心がある	4 (30.8)	2 (15.4)	7 (53.8)	13 (100.0)
やや関心がある	30 (45.5)	20 (30.3)	16 (24.2)	66 (100.0)
あまり関心がない	28 (35.4)	25 (31.6)	26 (32.9)	79 (100.0)
関心がない	16 (28.1)	12 (21.1)	29 (50.9)	57 (100.0)
計	78 (36.3)	59 (27.4)	78 (36.3)	215 (100.0)



修士課程地域福祉学専攻に「関心がある」が 13 人（6.1%）、「やや関心がある」が 66 人（30.8%）であった。

8. 修士課程地域福祉学専攻への入学希望

	1 年生	2 年生	3 年生	合計
開設後(・卒業後)、すぐに受験し、合格した場合は入学したい	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
開設後(・卒業後)、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある	14 (63.6)	4 (18.2)	4 (18.2)	22 (100.0)
開設後(・卒業後)、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい	1 (16.7)	3 (50.0)	2 (33.3)	6 (100.0)
開設後(・卒業後)、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある	2 (22.2)	2 (22.2)	5 (55.6)	9 (100.0)
わからない	28 (45.2)	23 (37.1)	11 (17.7)	62 (100.0)
受験しない	32 (28.1)	27 (23.7)	55 (48.2)	114 (100.0)
計	78 (36.3)	59 (27.4)	78 (36.3)	215 (100.0)



修士課程地域福祉学専攻への進学希望について「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」が 2 人（0.9%）、「開設後（・卒業後）、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」が 22 人（10.2%）であった。

卒業生対象ニーズ調査　結果

1. 調査目的

本調査は、本学で改組予定の健康科学研究科地域福祉学専攻（修士課程）の基礎となる学部である本学健康科学部を卒業した者を対象に、地域福祉学専攻の進学ニーズの調査を目的に実施したものである。

2. 調査方法

郵送で調査依頼を実施し、回答はインターネットにより行った。

3. 調査対象

本学健康科学部（短期大学を含む）卒業生 3,708 人

4. 調査期間

令和 3 年 7 月 5 日～7 月 31 日

5. 回答者数

	対象者数	回答者数	回答率
合計	3,708	73	1.97%

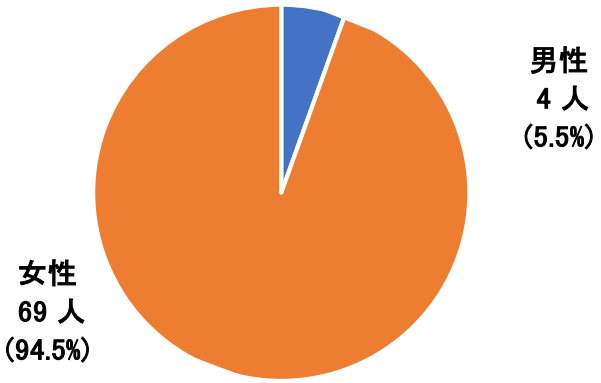
6. 調査結果まとめ

回答者 73 人中 7 人（9.6%）が「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」もしくは「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」と回答した。さらに、2 人（2.7%）が「開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい」もしくは「開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある」と回答した。

[調査結果]＊単位:人　括弧内は%

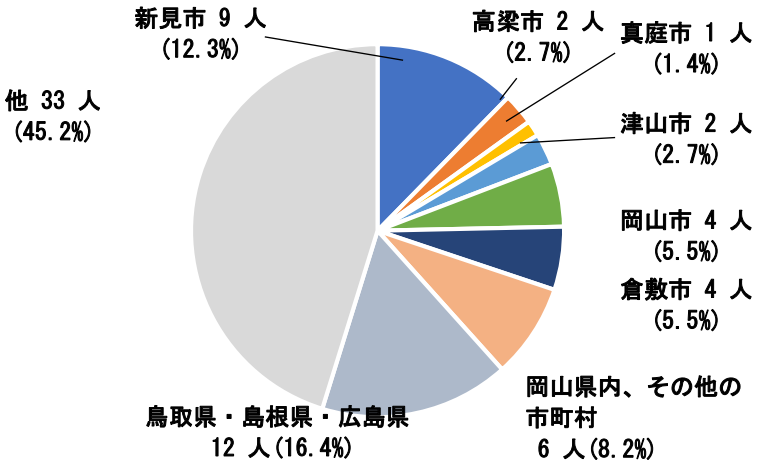
1.　性別

男性	4	(5.5)
女性	69	(94.5)
計	73	(100.0)



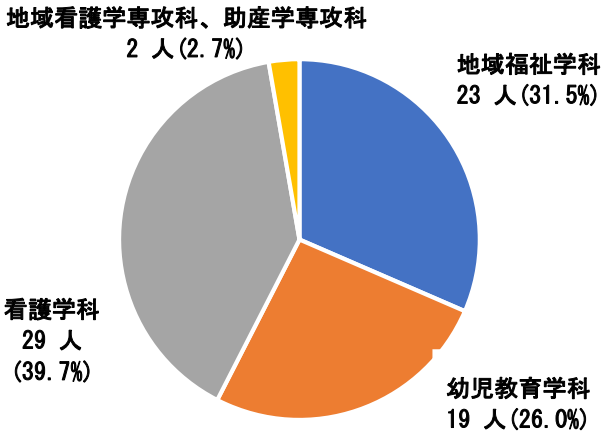
2.　居住地域

新見市	9	(12.3)
高梁市	2	(2.7)
美作市	0	(0.0)
真庭市	1	(1.4)
津山市	2	(2.7)
岡山市	4	(5.5)
倉敷市	4	(5.5)
岡山県内、その他の市町村	6	(8.2)
鳥取県・島根県・広島県	12	(16.4)
他	33	(45.2)
計	73	(100.0)



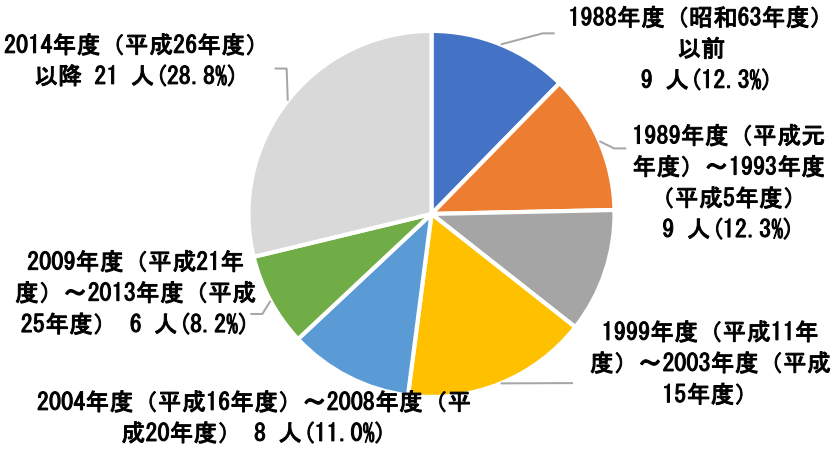
3.　卒業学科

地域福祉学科	23	(31.5)
幼児教育学科	19	(26.0)
看護学科	29	(39.7)
地域看護学専攻科、助産学専攻科	2	(2.7)
計	73	(100.0)



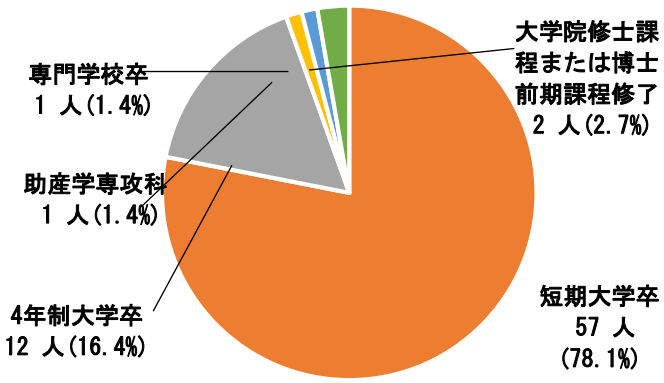
4. 卒業年度

1988 年度(昭和 63 年度)以前	9	(12.3)
1989 年度(平成元年度)～1993 年度(平成 5 年度)	9	(12.3)
1994 年度(平成 6 年度)～1998 年度(平成 10 年度)	8	(11.0)
1999 年度(平成 11 年度)～2003 年度(平成 15 年度)	12	(16.4)
2004 年度(平成 16 年度)～2008 年度(平成 20 年度)	8	(11.0)
2009 年度(平成 21 年度)～2013 年度(平成 25 年度)	6	(8.2)
2014 年度(平成 26 年度)以降	21	(28.8)
計	73	(100.0)



5. 最終学歴

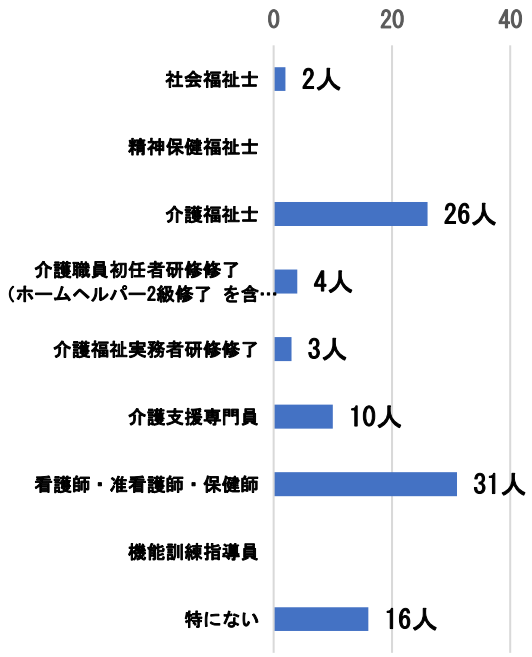
高等学校卒	0	(0.0)
短期大学卒	57	(78.1)
4 年制大学卒	12	(16.4)
専門学校卒	1	(1.4)
助産学専攻科	1	(1.4)
大学院修士課程または博士前期課程修了	2	(2.7)
大学院博士課程修了(単位取得満期退学を含む)	0	(0.0)
計	73	(100.0)



回答者の属性は、女性 69 人（94.5%)、岡山県内または近隣県以外が 33 人（45.2%)、2014 年度（平成 26 年度）以降卒業 21 人(28.8%)、短期大学卒業 57 人(78.1%)がそれぞれ最も多かった。

6. 所持資格（複数回答）

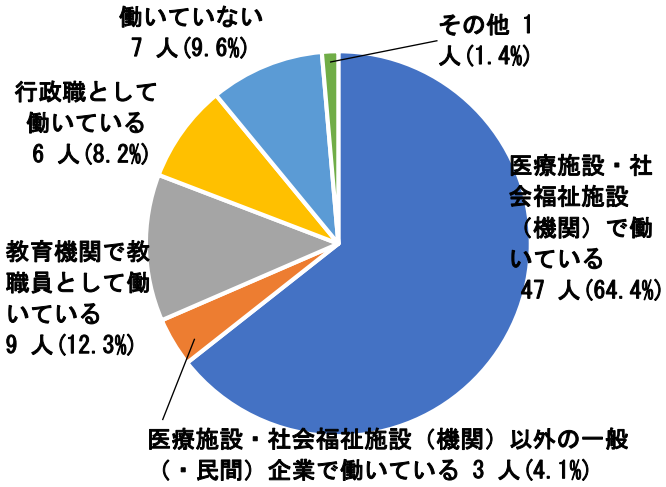
社会福祉士	2	(2.7)
精神保健福祉士	0	(0.0)
介護福祉士	26	(35.6)
介護職員初任者研修修了（ホームヘルパー2 級修了を含む）	4	(5.5)
介護福祉実務者研修修了	3	(4.1)
介護支援専門員	10	(13.7)
看護師・准看護師・保健師	31	(42.5)
機能訓練指導員	0	(0.0)
特にない	16	(21.9%)



資格保持者の中で看護師・准看護師・保健師保持者が 31 人（42.5%）で最も多かった。

7. 勤務の状況

医療施設・社会福祉施設（機関）で働いている	47	(64.4)
医療施設・社会福祉施設（機関）以外の一般（・民間）企業で働いている	3	(4.1)
教育機関で教職員として働いている	9	(12.3)
行政職として働いている	6	(8.2)
働いていない	7	(9.6)
その他	1	(1.4)
計	73	(100.0)

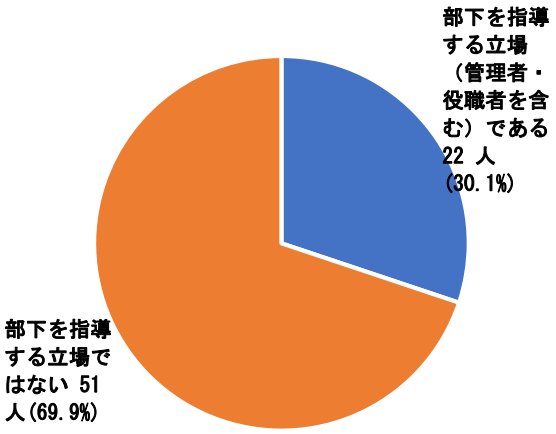


現在の勤務の状況は、「医療施設・社会福祉施設（機関）で働いている」が 47 人（64.4%）でも最も多かった

8.　現在の職場での立場

部下を指導する立場(管理者・役職者を含む)である	22	(30.1)
部下を指導する立場ではない	51	(69.9)
計	73	(100.0)

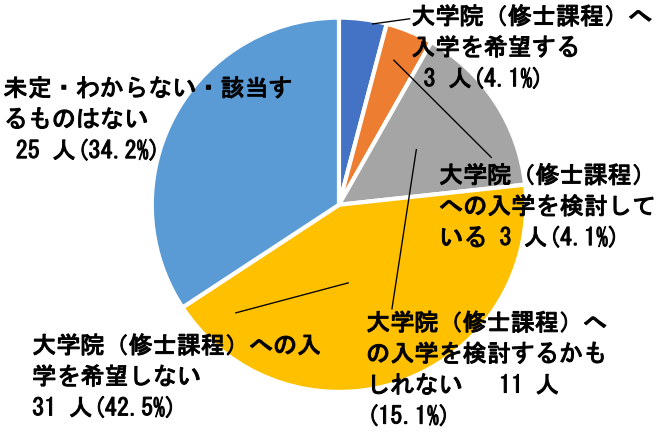
現在、「部下を指導する立場ではない」が 51 人(69.9%)であった。



9.　大学院進学希望

大学院(修士課程)へ入学を希望する	3	(4.1)
大学院(修士課程)への入学を検討している	3	(4.1)
大学院(修士課程)への入学を検討するかもしれない	11	(15.1)
大学院(修士課程)への入学を希望しない	31	(42.5)
未定・わからない・該当するものはない	25	(34.2)
計	73	(100.0)

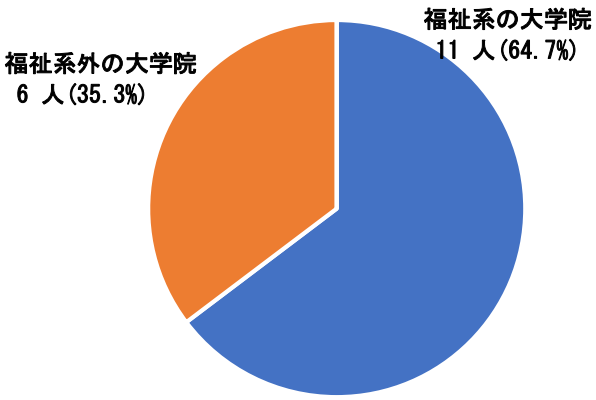
「大学院（修士課程）へ入学を希望する」が 3 人（4.1%）、「大学院（修士課程）への入学を検討している」が 3 人（4.1%）、「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」が 11 人(15.1%)であった。



9SQ-1. 希望する場合の大学院

「大学院（修士課程）への入学を希望する」
「大学院（修士課程）への入学を検討している」
「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」を回答した人のみ

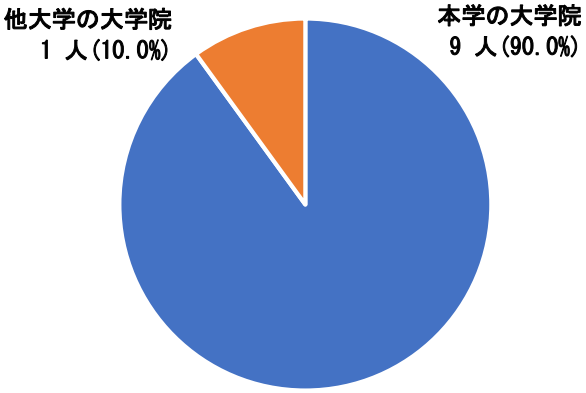
福祉系の大学院	11	（64.7%）
福祉系外の大学院	6	（35.3%）
未定・わからない・該当するものはない	0	（0.0%）
計	17	（100.0）



「大学院（修士課程）への入学を希望する」「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」のいずれかを回答した 17 人の内、福祉系の大学院を希望する回答した人は 11 人（64.7%）であった。

9SQ-2.　福祉系を希望する場合の大学院

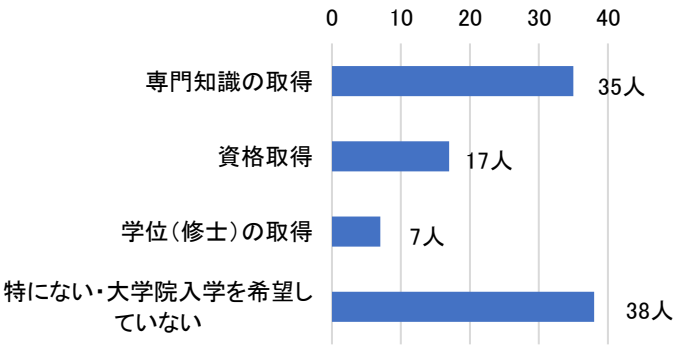
本学の大学院	9	（90.0%）
他大学の大学院	1	（10.0%）
計	10	（100.0）



「福祉系の大学院」を希望すると回答した 11 人の内、1 人が無回答であった。無回答を除き、本学の大学院を希望すると回答したのは 9 人（90.0%）であった。

10.　大学院進学目的（複数回答）

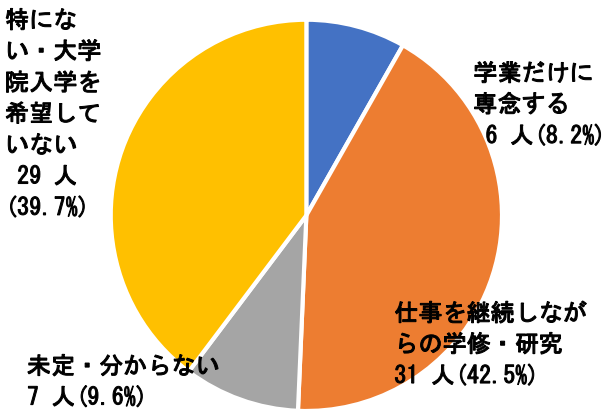
専門知識の取得	35	(47.9)
資格取得	17	(23.3)
学位（修士）の取得	7	(9.6)
特にない・大学院入学を希望していない	38	(52.1)
その他:	0	(0.0)



大学院の進学目的として「特にない・大学院入学を希望していない」以外で、「専門知識の取得」が 35 人（47.9%）と最も多かった。

11.　大学院進学形態

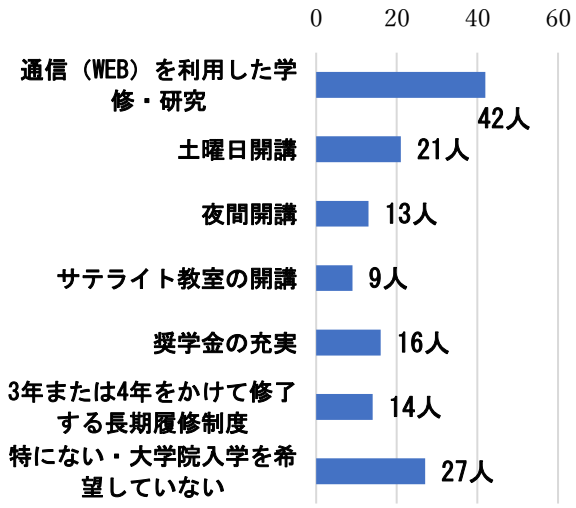
学業だけに専念する	6	(8.2)
仕事を継続しながらの学修・研究	31	(42.5)
未定・分からない	7	(9.6)
特にない・大学院入学を希望していない	29	(39.7)
その他:	0	(0.0)
計	73	(100.0)



「仕事を継続しながらの学修・研究」が 31 人(42.5%)であった。

12.　希望する環境（複数回答）

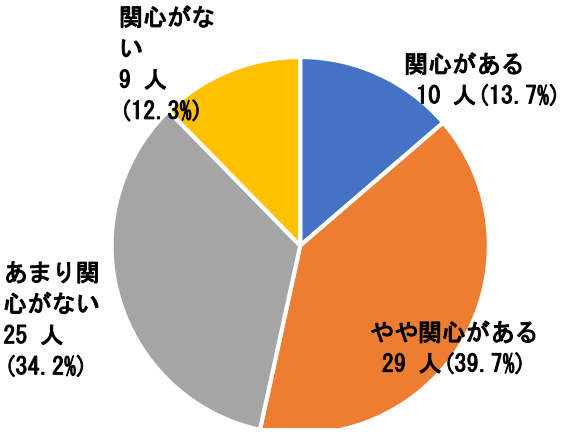
通信（WEB）を利用した学修・研究	42	(57.5)
土曜日開講	21	(28.8)
夜間開講	13	(17.8)
サテライト教室の開講	9	(12.3)
奨学金の充実	16	(21.9)
3 年または 4 年をかけて修了する長期履修制度	14	(19.2)
特にない・大学院入学を希望していない	27	(37.0)



希望する学修・研修環境として「通信（WEB）を利用した学修・研究」が 42 人（57.5%）であった。

13.　修士課程地域福祉学専攻への関心

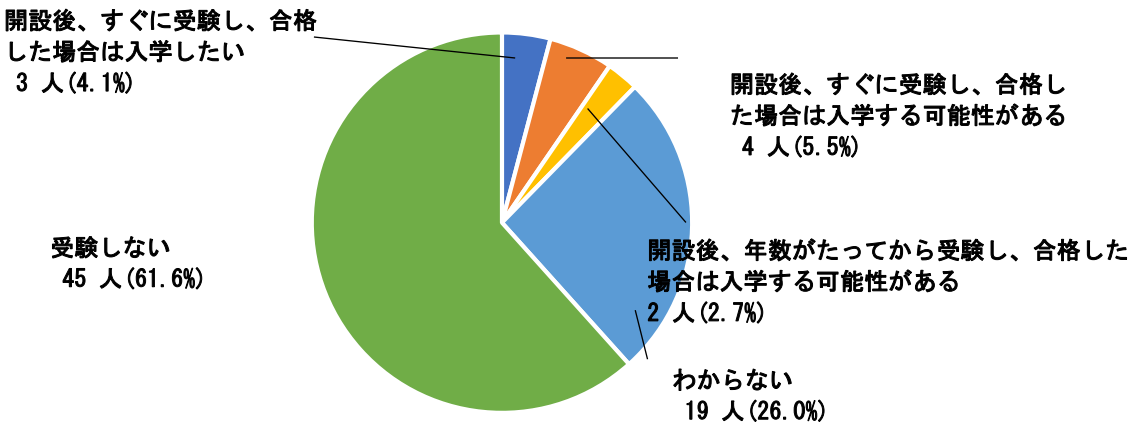
関心がある	10	(13.7)
やや関心がある	29	(39.7)
あまり関心がない	25	(34.2)
関心がない	9	(12.3)
計	73	(100.0)



修士課程地域福祉学専攻に「関心がある」が 10 人（13.7%）、「やや関心がある」が 29 人（39.7%）であった。

14.　修士課程地域福祉学専攻入学希望

開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい	3	(4.1)
開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある	4	(5.5)
開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい	0	(0.0)
開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある	2	(2.7)
わからない	19	(26.0)
受験しない	45	(61.6)
計	73	(100.0)



修士課程地域福祉学専攻への進学希望について「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」が 3 人（4.1%）、「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」が 4 人（5.5%）であった。

実習施設職員等対象ニーズ調査　結果

1. 調査目的

本調査は、本学で改組予定の健康科学研究科地域福祉学専攻（修士課程）の基礎となる学部である本学健康科学部で実習施設の施設・機関（社会福祉士養成実習、介護福祉士養成実習）、および新見市役所の勤務者を対象に、地域福祉学専攻の進学ニーズの調査を目的に実施したものである。

2. 調査方法

郵送、もしくは訪問時に調査依頼を実施し、回答はインターネットにより行った。

3. 調査対象

実習施設の施設・機関、またはそれらの付属機関の勤務者　注2）
新見市役所職員　467

4. 調査期間

令和 3 年 7 月 5 日～8 月 31 日

5. 回答者数

	対象者数	回答者数	回答率
実習施設の施設・機関、またはそれらの付属機関の勤務者	注）	60	―
新見市役所職員	467	19	4.1%
合計		79	

注）実習施設・機関 29 施設に各施設から3～5 人程度ずつ回答を求めたため、正確な対象者数は不明

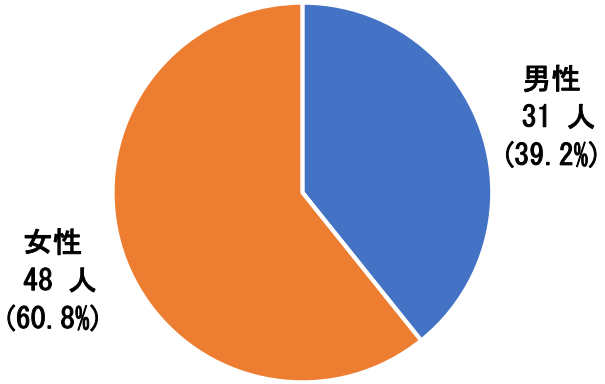
6. 調査結果まとめ

回答者 79 人中 2 人（2.5%）が「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい」もしくは「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」と回答した。さらに、7 人（8.9%）が「開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい」もしくは「開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある」と回答した。

[調査結果]＊単位:人　括弧内は%

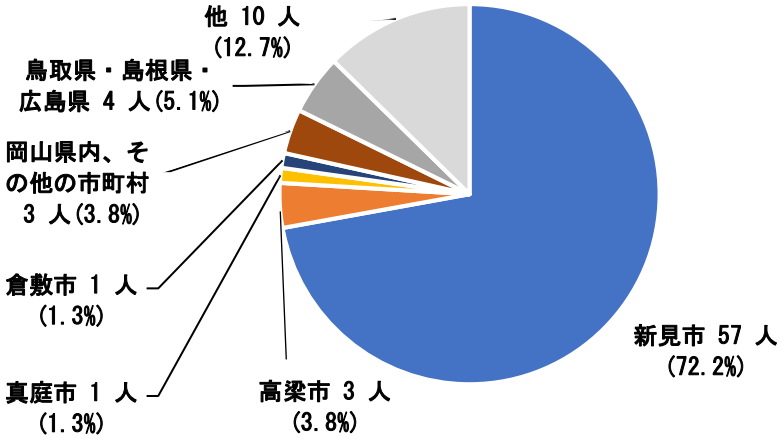
1.　性別

男性	31	(39.2)
女性	48	(60.8)
計	79	(100.0)



2.　居住地域

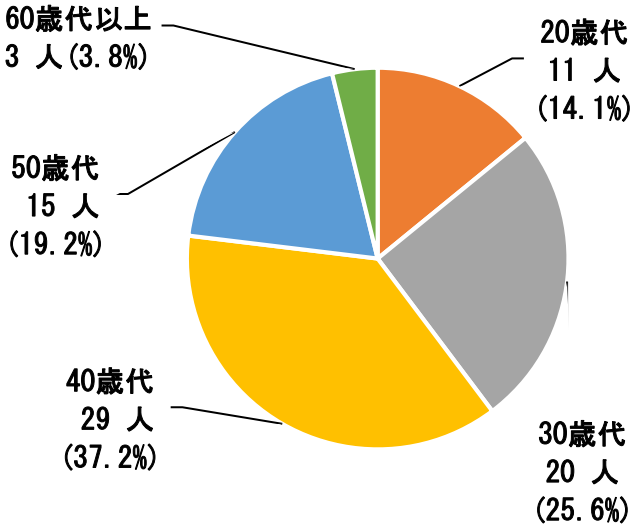
新見市	57	(72.2)
高梁市	3	(3.8)
美作市	0	(0.0)
真庭市	1	(1.3)
津山市	0	(0.0)
岡山市	0	(0.0)
倉敷市	1	(1.3)
岡山県内、その他の市町村	3	(3.8)
鳥取県・島根県・広島県	4	(5.1)
他	10	(12.7)
計	79	(100.0)



3.　年齢

10 歳代	0	(0.0)
20 歳代	11	(14.1)
30 歳代	20	(25.6)
40 歳代	29	(37.2)
50 歳代	15	(19.2)
60 歳代以上	3	(3.8)
計	78	(100.0)

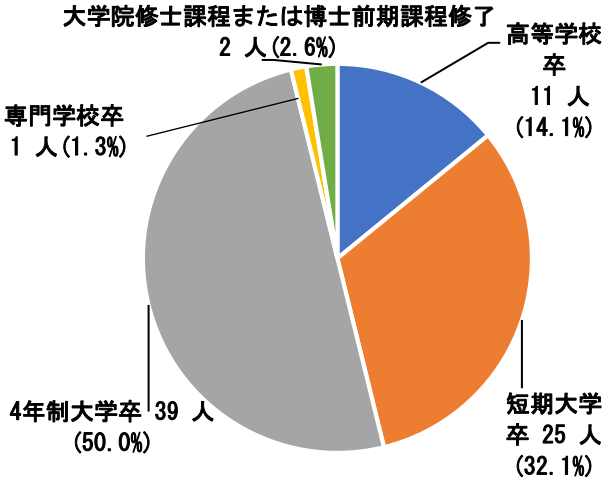
（無回答:1）



4. 最終学歴

高等学校卒	11	(14.1)
短期大学卒	25	(32.1)
4 年制大学卒	39	(50.0)
専門学校卒	1	(1.3)
助産学専攻科	0	(0.0)
大学院修士課程または博士前期課程修了	2	(2.6)
大学院博士課程修了(単位取得満期退学を含む)	0	(0.0)
計	78	(100.0)

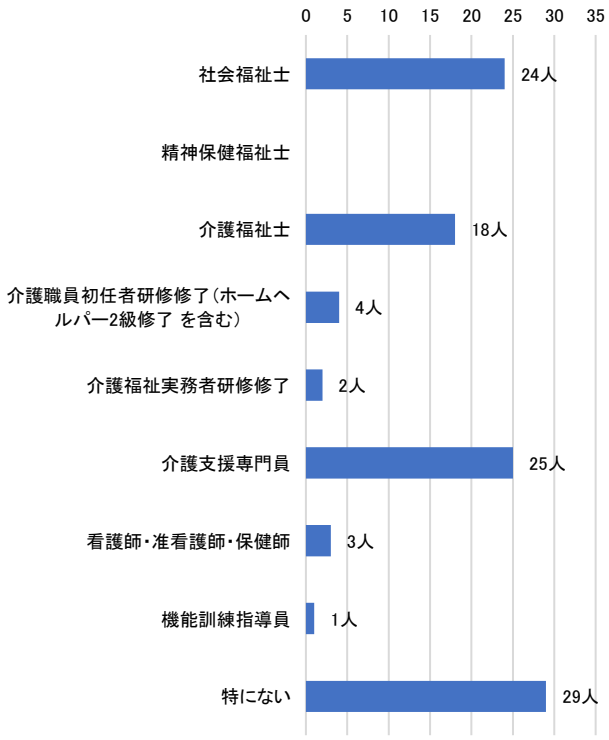
(無回答:1)



回答者の属性は、女性 48 人 (60.8%)、新見市内が 57 人 (72.2%)、40 歳代 29 人(37.2%)、4 年生大学卒業 39 人(50.0%)がそれぞれ最も多かった。

5. 所持資格(複数回答)

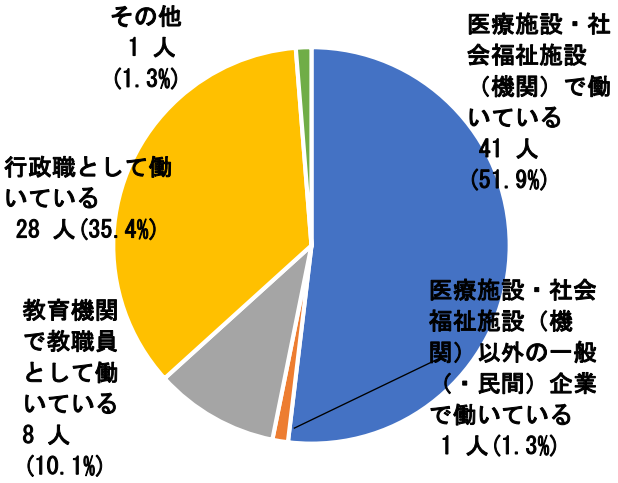
社会福祉士	24	(30.4)
精神保健福祉士	0	(0.0)
介護福祉士	18	(22.8)
介護職員初任者研修修了(ホームヘルパー2 級修了を含む)	4	(5.1)
介護福祉実務者研修修了	2	(2.5)
介護支援専門員	25	(31.6)
看護師・准看護師・保健師	3	(3.8)
機能訓練指導員	1	(1.3)
特にない	29	(36.7)



資格保持者の中で社会福祉士保持者が 24 人 (30.4%)で多かったが、「特にない」が 29 人(36.7%)で最も多かった。

6.　勤務の状況

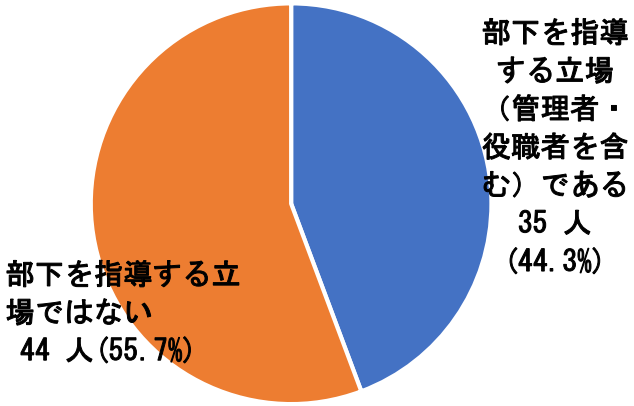
医療施設･社会福祉施設（機関）で働いている	41	(51.9)
医療施設･社会福祉施設（機関）以外の一般（･民間）企業で働いている	1	(1.3)
教育機関で教職員として働いている	8	(10.1)
行政職として働いている	28	(35.4)
働いていない	0	(0.0)
その他	1	(1.3)
計	79	(100.0)



現在の勤務の状況は、「医療施設・社会福祉施設（機関）で働いている」が 41 人（51.9%）で最も多かった。

7.　現在の職場での立場

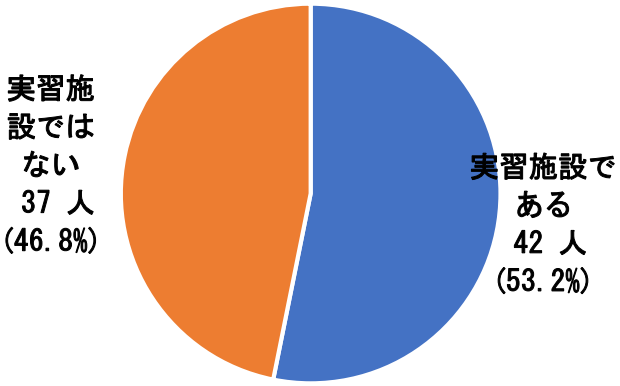
部下を指導する立場（管理者･役職者を含む）である	35	(44.3)
部下を指導する立場ではない	44	(55.7)
計	79	(100.0)



現在、「部下を指導する立場ではない」が 44 人(55.7%)であった。

9.　実習施設かどうか

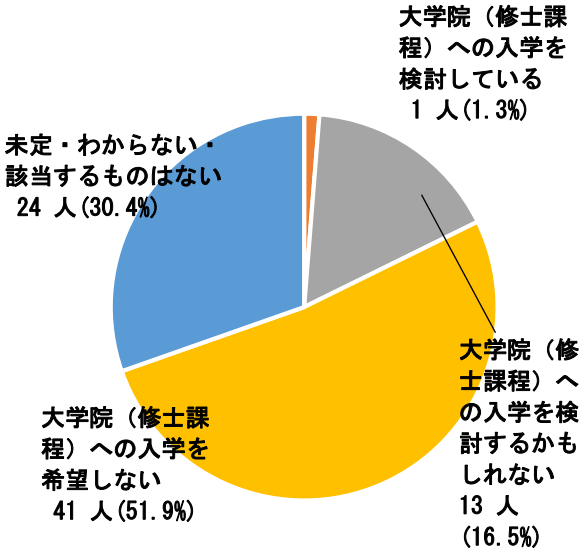
実習施設である	42	(53.2)
実習施設ではない	37	(46.8)
計	79	(100.0)



現在、本学健康科学部地域福祉学科の実習先である人が 42 人(53.2%)であった。(1 施設から複数が回答している可能性がある)

10.　大学院進学希望

			（内、行政職員）	
大学院(修士課程)へ入学を希望する	**0**	(0.0)	**0**	(0.0)
大学院(修士課程)への入学を検討している	**1**	(1.3)	**0**	(0.0)
大学院(修士課程)への入学を検討するかもしれない	**13**	(16.5)	5	(17.9)
大学院(修士課程)への入学を希望しない	41	(51.9)	13	(46.4)
未定・わからない・該当するものはない	24	(30.4)	10	(35.7)
計	79	(100.0)	28	(100.0)

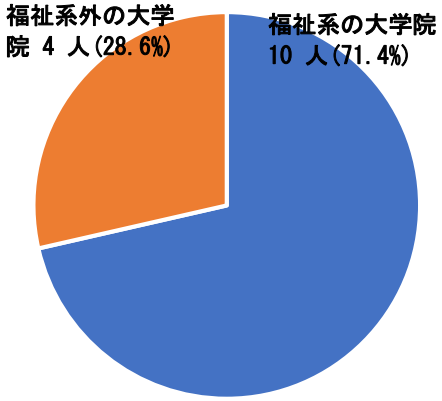


「大学院（修士課程）への入学を検討している」が 1 人（1.3%）であり、「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」が 13 人（16.5%）であった。

10SQ-1. 希望する場合の大学院

「大学院(修士課程)への入学を希望する」
「大学院(修士課程)への入学を検討している」
「大学院(修士課程)への入学を検討するかもしれない」 を回答した人のみ

			（内、行政職員）	
福祉系の大学院	10	(71.4)	2	(40.0)
福祉系外の大学院	4	(28.6)	3	(60.0)
未定・わからない・該当するものはない	0	(0.0)	0	(0.0)
計	14	(100.0)	5	(100.0)

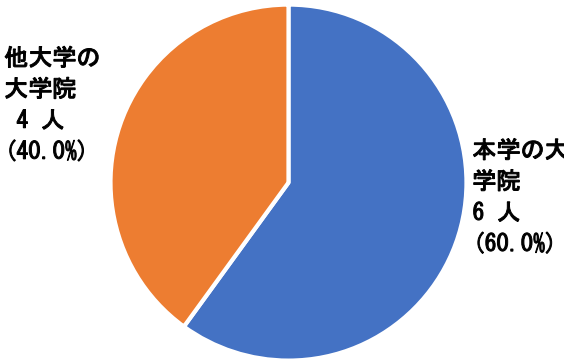


「大学院（修士課程）への入学を検討している」「大学院（修士課程）への入学を検討するかもしれない」のいずれかを回答した 14 人の内、福祉系の大学院を希望する回答した人は 10 人（71.4%）であった。

10SQ-2.　福祉系を希望する場合の大学院

			（内、行政職員）	
本学の大学院	6	(60.0)	2	(100.0)
他大学の大学院	4	(40.0)	0	(0.0)
計	10	(100.0)	2	(100.0)

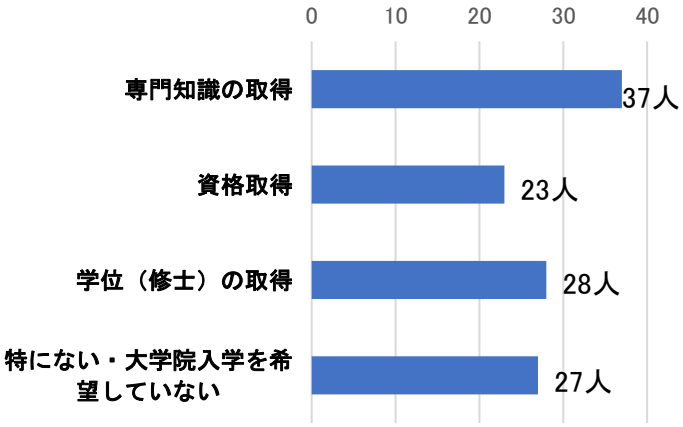
「福祉系の大学院」を希望すると回答した 10 人の内、本学の大学院を希望すると回答したのは 6 人(60.0%)であった。



11.　大学院進学目的(複数回答)

専門知識の取得	37	(46.8)
資格取得	23	(29.1)
学位(修士)の取得	28	(35.4)
特にない・大学院入学を希望していない	27	(34.2)
その他	0	(0.0)

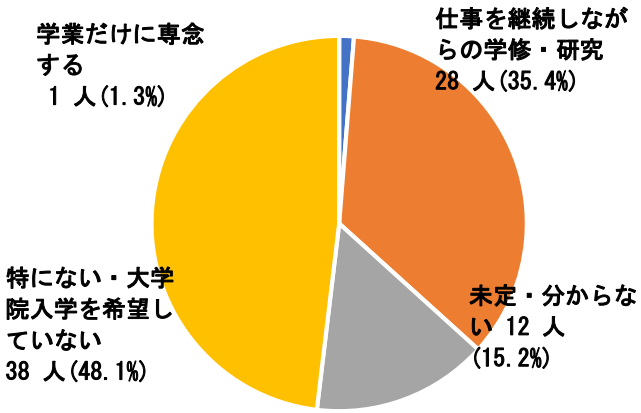
大学院の進学目的として「専門知識の取得」が 37 人（46.8%）と最も多かった。



14.　大学院進学形態

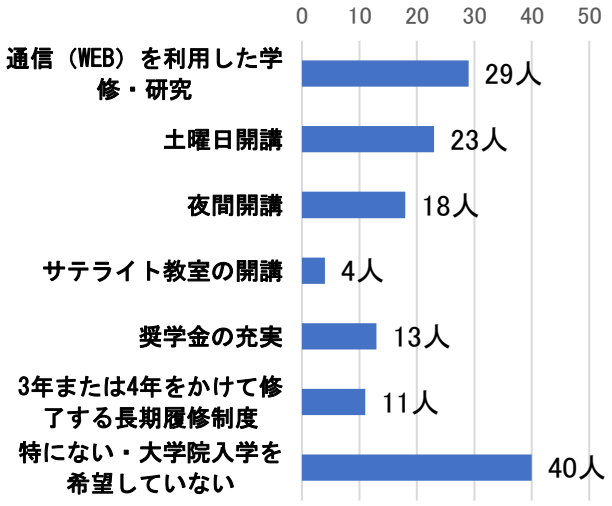
学業だけに専念する	1	(1.3)
仕事を継続しながらの学修・研究	28	(35.4)
未定・分からない	12	(15.2)
特にない・大学院入学を希望していない	38	(48.1)
その他:	0	(0.0)
計	79	(100.0)

「仕事を継続しながらの学修・研究」が 28 人(35.4%)であった。



15.　希望する環境（複数回答）

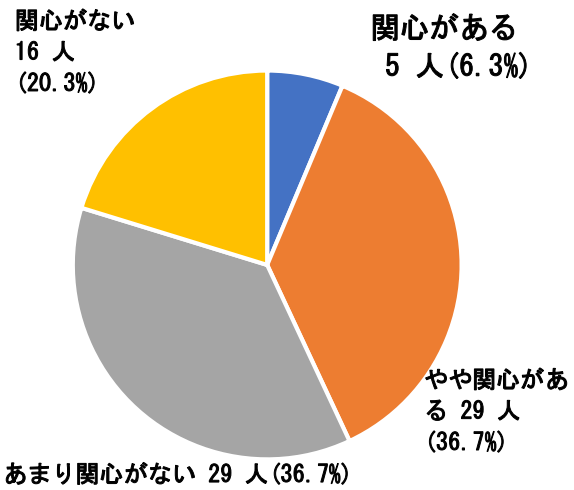
通信（WEB）を利用した学修・研究	29	(36.7)
土曜日開講	23	(29.1)
夜間開講	18	(22.8)
サテライト教室の開講	4	(5.1)
奨学金の充実	13	(16.5)
3 年または 4 年をかけて修了する長期履修制度	11	(13.9)
特にない・大学院入学を希望していない	40	(50.6)



希望する学修・研修環境として「通信（WEB）を利用した学修・研究」が 29 人（36.7%）であった。

16.　修士課程地域福祉学専攻への関心

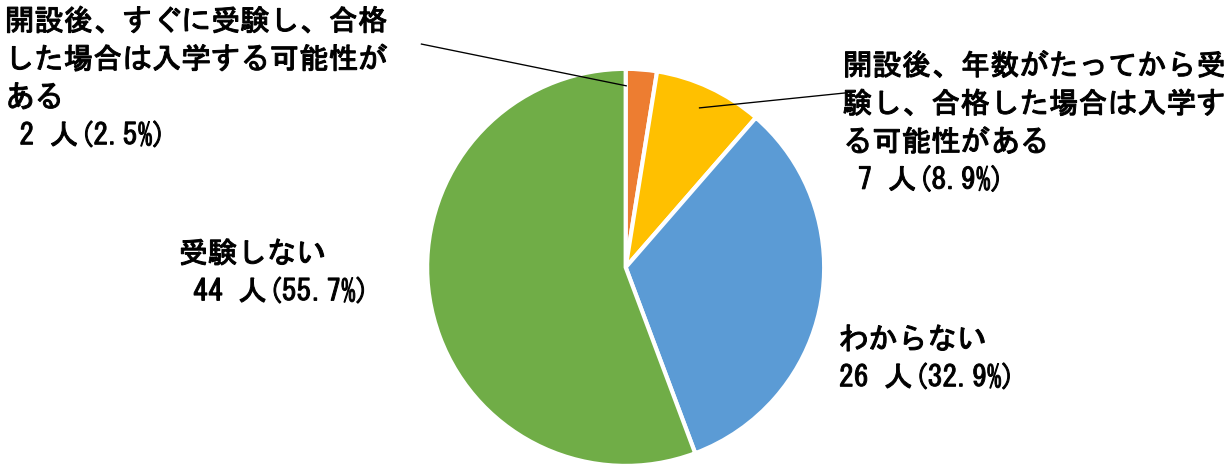
			（内、行政職員）	
関心がある	**5**	(6.3)	2	(7.1)
やや関心がある	**29**	(36.7)	6	(21.4)
あまり関心がない	29	(36.7)	16	(57.1)
関心がない	16	(20.3)	4	(14.3)
計	79	(100.0)	28	(100.0)



修士課程地域福祉学専攻に「関心がある」が 5 人(6.3%)、「やや関心がある」が 29 人(36.7%)であった。

17.　修士課程地域福祉学専攻入学希望

		（内、行政職員）
開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学したい	0　(0.0)	0　(0.0)
開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある	2　(2.5)	1　(3.6)
開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学したい	0　(0.0)	0　(0.0)
開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある	7　(8.9)	1　(3.6)
わからない	26　(32.9)	5　(17.9)
受験しない	44　(55.7)	21　(75.0)
計	79　(100.0)	28　(100.0)



修士課程地域福祉学専攻への進学希望について「開設後、すぐに受験し、合格した場合は入学する可能性がある」が 2 人（2.5%）、開設後、年数がたってから受験し、合格した場合は入学する可能性がある」が 7 人(8.9%)であった。

1　学生確保の見通し等を記載した書類 資料 14

令和 3 年(2021)年度　私立大学・短期大学等入学志願動向」(抜粋)

2 出典　日本私立学校振興・共済事業団「令和3(2021)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」 108 ページ

3 アドレス

https://www.shigaku.go.jp/files/nyuugakusiganndoukoudaitan0928.pdf

4　日本私立学校振興・共済事業団ホームページから当該資料を取得し、加工せずに掲載した。

1 学生確保の見通し等を記載した書類 資料 15

重層的支援体制整備事業における具体的な支援フローについて（抜粋）

2 出典 厚生労働省「重層的支援体制整備事業における具体的な支援フローについて」2－3 ページ

3 アドレス

https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/000650996.pdf

4 厚生労働省ホームページから資料を取得し、加工せずに掲載した。

資料16「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議」

地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議

令和二年六月四日参議院厚生労働委員会

政府は、本法の施行に当たり、次の事項について適切な措置を講ずるべきである。

一、重層的支援体制整備事業について、同事業が介護、障害、子ども及び生活困窮の相談支援等に加え、伴走支援、多機関協働、アウトリーチ支援等の新たな機能を担うことを踏まえ、同事業がより多くの市町村において円滑に実施されるよう、裁量的経費を含めて必要な予算を安定的に確保するとともに、既存の各種事業の継続的な相談支援の実施に十分留意し、その実施体制や専門性の確保・向上に向けた施策を含め、市町村への一層の支援を行うこと。また、同事業を実施するに当たっては、社会福祉士や精神保健福祉士が活用されるよう努めること。

二、認知症に対する概念の変化、政令で定める状態について広く周知し、「共生」と「予防」の概念を分かりやすく国民に説明すること。

三、医療・介護のデータ基盤整備に関し、本法の施策によって解決・改善される問題・課題及びもたらされる具体的なメリットについて、費用対効果を含め、国民に分かりやすく提示するとともに、進捗管理を徹底すること。

四、介護・障害福祉サービスに従事する者、とりわけ国家試験に合格した介護福祉士の需要の充足状況及び賃金・処遇等の改善の状況を適切に把握するとともに、賃金・処遇、ハラスメント対策を含む雇用管理及び勤務環境の改善等の方策について検討し、処遇改善加算等が賃金・処遇等の改善に有効につながる施策を講ずる等、介護・障害福祉サービスに従事する者の確保・育成に向けて必要な措置を講ずること。

五、介護福祉士養成施設卒業者への国家試験義務付けに係る経過措置については、本来速やかに終了させるべきものであることに鑑み、その終了に向けて、直ちに検討を開始し、必要な施策を確実に実施すること。また、各養成施設ごとの国家試験の合格率など介護福祉士養成施設の養成実態・実績を調査・把握の上公表するとともに、可能な範囲で過去に遡って公表し、必要な対策を講ずること。また、介護福祉士資格の取得を目指す日本人学生及び留学生に対する支援を充実すること。

六、社会福祉連携推進法人制度について、社会福祉連携推進法人が地域の福祉サービスの推進に資する存在として事業展開できるよう、社員となることのメリットを分かりやすく示すこと。また、社会福祉法人の合併及び事業譲渡の推進策について検討すること。右決議する。

1 学生確保の見通し等を記載した書類 資料 17

福祉人材確保対策検討会における議論の取りまとめ（抜粋）

2 出典 厚生労働省「福祉人材確保対策検討会における議論の取りまとめ」1－6 ページ

3 アドレス

https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12201000-Shakaiengokyokushougaihokenfukushibu-Kikakuka/torimatome.pdf

4 厚生労働省ホームページから資料を取得し、加工せずに掲載した。

1 学生確保の見通し等を記載した書類 資料 18

岡山県地域福祉支援計画（第3次改訂版）（抜粋）

2 出典 岡山県 「岡山県地域福祉支援計画（第3次改訂版）」14 ページ

3 アドレス

https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/654496_5674356_misc.pdf

4 岡山県ホームページから資料を取得し、加工せずに掲載した。

1 学生確保の見通し等を記載した書類 資料 19

第2期新見市地域福祉計画（抜粋）

2 出典 新見市 「第 2 期新見市地域福祉計画」85-87 ページ

3 アドレス

https://www.city.niimi.okayama.jp/media_images/files/_____

_____20201003.pdf

4 新見市ホームページから資料を取得し、加工せずに掲載した。

修了者の採用に関する意向調査　結果

1. 調査目的

本調査は、本学で改組予定の健康科学研究科地域福祉学専攻（修士課程）修了者の採用意向および現在、将来における人材需要を調査し、大学院修了者の必要性を明らかにする

注）令和５年度より、「看護学研究科」は「健康科学研究科」に名称変更予定である。そのため、本調査では「健康科学研究科地域福祉学専攻」としている。

2. 調査方法

対象者へ自己記入式質問調査用紙を郵送

3. 調査対象

岡山県とその近県（広島県、鳥取県、島根県）の医療法人及び社会福祉事業者 598 事業所の施設管理者

4. 調査期間

令和３年 12 月 1 日～12 月 10 日

5. 回答事業者数等

対象数	回収数	回答率
598	149	24.9%

6. 調査結果まとめ

「本学大学院地域福祉学専攻修士課程において育成しようとしている能力（資質）は、貴法人に役立つとお考えですか。」の問いに関して、「とても役に立つ」35 件（24.5%）、「役に立つ」84 件（58.7%）で、本学が育成を目指している能力を 80%以上が、役に立つと考えていた。

「貴法人では、本学大学院地域福祉学専攻修士課程の修了者を採用したいと思われますか。」と尋ねたところ、「採用したい」35 件（24.3%）、「採用する方向で考えたい」18 件（12.5%）であり、採用意欲があるのは 40%弱であった。

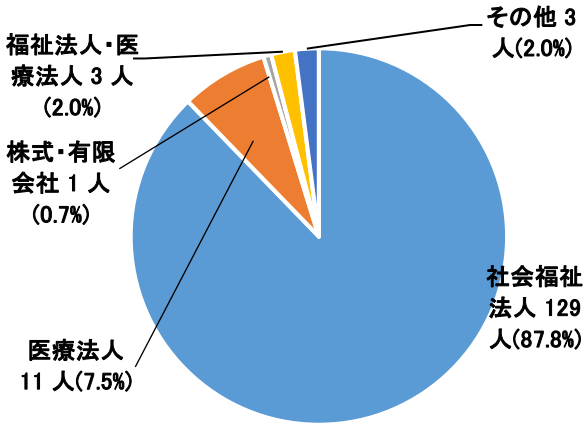
「貴法人では、貴職員に対して本学大学院地域福祉学専攻修士課程への進学を勧めたいと思われますか。」と、事業所からのキャリアアップの意向について尋ねたところ、「勧めたい」7 件（4.7%）、「勧め

る方向で考えたい」8 件（5.4%）、「勧める可能性がある」54 件（36.2%）であった。法人としては勧めないは約半数であった。

[調査結果]＊単位:人　括弧内は%

1. 対象事業所の属性

社会福祉法人	129	(87.8)
医療法人	11	(7.5)
株式・有限会社	1	(0.7)
福祉法人・医療法人	3	(2.0)
その他	3	(2.0)
計	147	(100.0)
無回答	2	

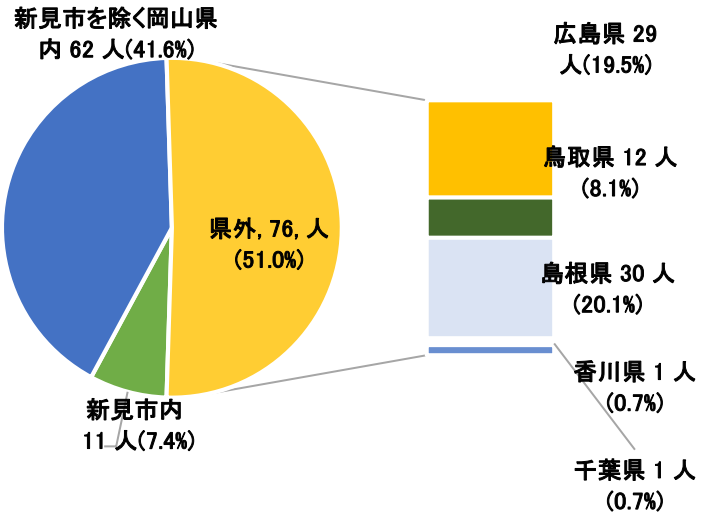


149 事業所より回答があった（回答率 24.9%）。社会福祉法人 129 件（87.8%）、医療法人 11 件（7.5%）、社会福祉法人・医療法人の両方を持つ法人が 3 件（2.0%）であった。

2. 事業所所在地

新見市内	11	(7.4)
新見市を除く岡山県内	62	(41.6)
県外	76	(51.0)
計	149	(100.0)

広島県	29	(39.7)
島根県	30	(41.1)
鳥取県	12	(16.4)
香川県	1	(1.4)
千葉県	1	(1.4)
計	73	(100.0)
無回答	3	

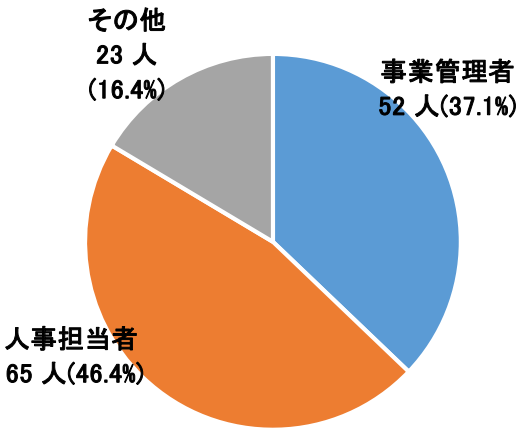


対象事業所の所在地は、本学のある新見市内 11 事業所（7.4%）、新見市内を除く岡山県 62 事業所（41.6%）、県外 76 事業所（51.0%）であり、

県外では島根県 30 事業所（41.1%）、広島県 29 事業所（39.7%）が多かった。本部の所在地である千葉県・香川県のそれぞれ 1 事業所の回答が見られた。

3. 回答者の属性

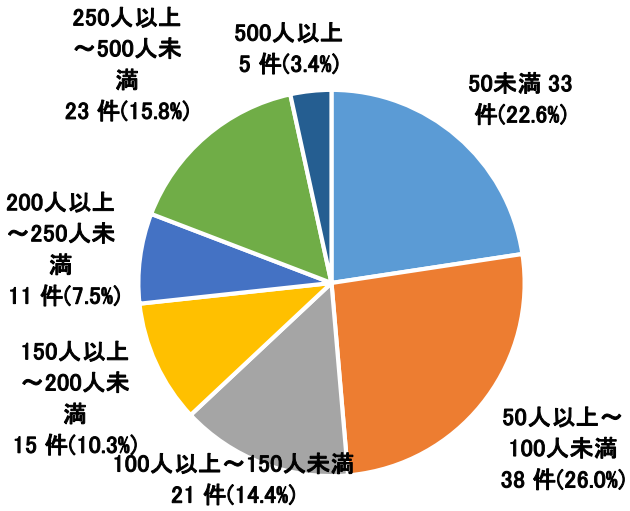
事業管理者	52	(37.1)
人事担当者	65	(46.4)
その他	23	(16.4)
計	140	(100.0)
無回答	9	



回答者の属性は、事業管理者 52 人（37.1%）、人事担当者が 65 人（46.4%）、その他として、事務長、本部事務、広報担当者から回答を得た。

4. 回答事業者の職員数

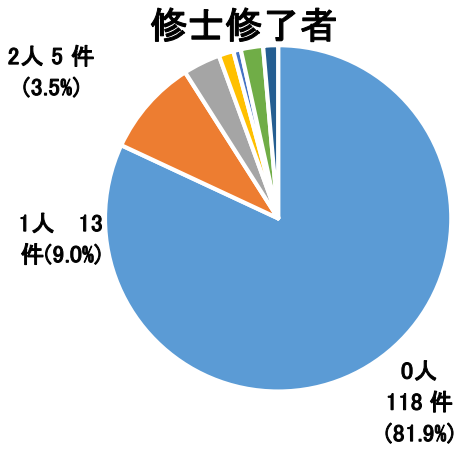
50 未満	33	(22.6)
50 人以上～100 人未満	38	(26.0)
100 人以上～150 人未満	21	(14.4)
150 人以上～200 人未満	15	(10.3)
200 人以上～250 人未満	11	(7.5)
250 人以上～500 人未満	23	(15.8)
500 人以上	5	(3.4)
計	146	(100.0)
無回答	3	

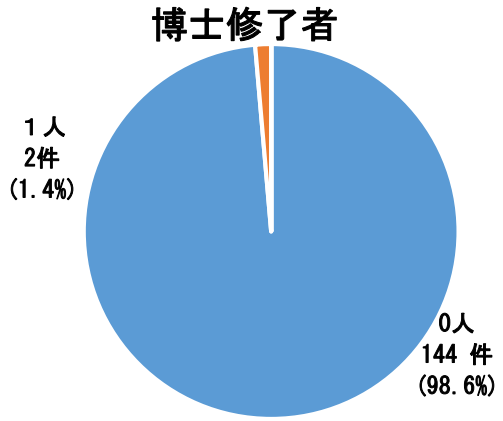


回答を得た事業所規模を職員数別でみると、50 人以上 100 人未満が最も多く 38 件（26.0%）、次いで 50 人未満が 33 件（22.6%）であった。500 人以上の大型の法人も 5 件（3.4%）見られた。

5. 大学院修了者在籍者数

	修士修了者		博士修了者	
0 人	118	(81.9)	144	(98.6)
1 人	13	(9.0)	2	(1.4)
2 人	5	(3.5)	0	(0.0)
3 人	2	(1.4)	0	(0.0)
4人	1	(0.7)	0	(0.0)
5人	3	(2.1)	0	(0.0)
それ以上	2	(1.4)	0	(0.0)
計	144	(100.0)	146	(100.0)
無回答	5		3	

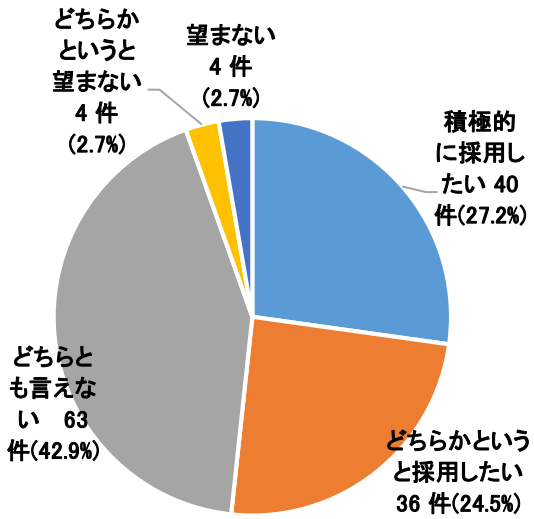




大学院修了者の雇用状況は、修士課程修了者が在籍しているのは 26 件であった。在籍者数は、1 人が 13 件（9. 0%）と最も多く、6 人以上在籍している事業所が 2 事業所みられた。118 件は 0 人（81. 9%）であった。博士課程修了者は、1 人在籍の事業所が 2 件（1. 4%）のみだった。

6. 大学院修了者の採用意向

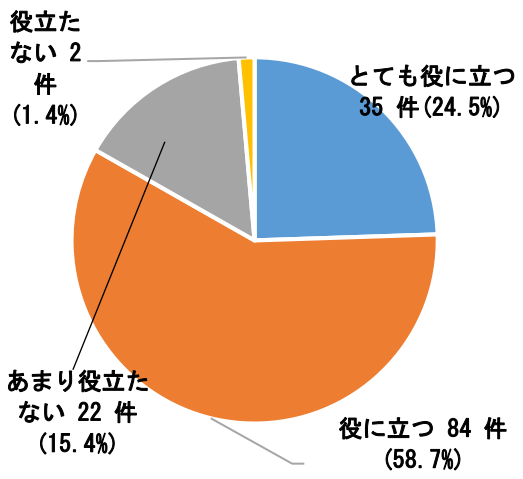
積極的に採用したい	40	(27.2%)
どちらかというと採用したい	36	(24.5%)
どちらとも言えない	63	(42.9%)
どちらかというと望まない	4	(2.7%)
望まない	4	(2.7%)
計	147	(100.0)
無回答	2	



今後、「福祉系大学院修了者の採用について」尋ねたところ、「積極的に採用したい」40 件（27. 2%）と、「どちらかというと採用したい」36 件（24. 5%）と合わせて、51. 7%が採用したいという回答であった。

7. 地域福祉学専攻修士課程が育成しようとしている人材は役に立つか

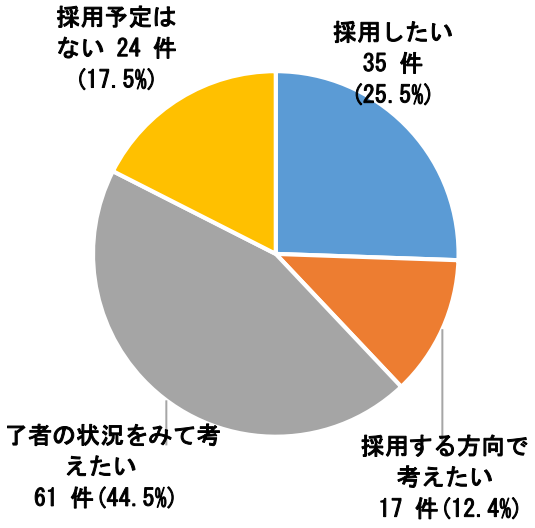
とても役に立つ	35	(24.5%)
役に立つ	84	(58.7%)
あまり役立たない	22	(15.4%)
役立たない	2	(1.4%)
計	143	(100.0%)
無回答	6	



「本学大学院地域福祉学専攻修士課程において育成しようとしている能力（資質）は、貴法人に役立つとお考えですか。」の問いに関して、「とても役に立つ」35 件（24.5%）、「役に立つ」84 件（58.7%）で、本学が育成を目指している能力を 80%以上が、役に立つと考えていた。

8. 地域福祉学専攻修士課程修了者の採用意向

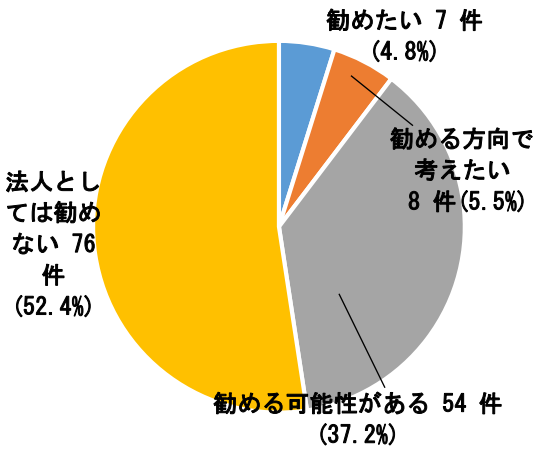
採用したい	35	(24.3%)
採用する方向で考えたい	18	(12.5%)
修了者の状況をみて考えたい	67	(46.5%)
採用予定はない	24	(16.7%)
計	144	(100.0%)
無回答	5	



「貴法人では、本学大学院地域福祉学専攻修士課程の修了者を採用したいと思われますか。」と尋ねたところ、「採用したい」35 件（24.3%）、「採用する方向で考えたい」18 件（12.5%）であり、採用意欲があるのは 40%弱であった。

9. 法人として地域福祉学専攻修士課程への進学を勧めるか

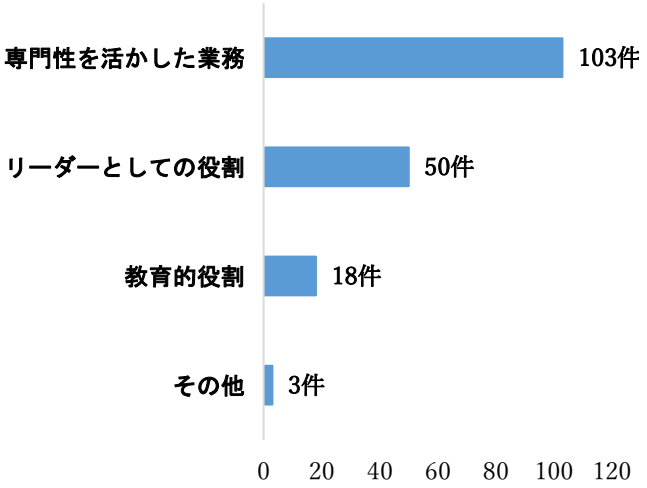
勧めたい	7	(4.8%)
勧める方向で考えたい	8	(5.5%)
勧める可能性がある	54	(37.2%)
法人としては勧めない	76	(52.4%)
計	145	(100.0%)
無回答	4	



「貴法人では、貴職員に対して本学大学院地域福祉学専攻修士課程への進学を勧めたいと思われますか。」と、事業所からのキャリアアップの意向について尋ねたところ、「勧めたい」7 件（4.7%）、「勧める方向で考えたい」8 件（5.4%）、「勧める可能性がある」54 件（36.2%）であった。法人としては勧めないは約半数であった。

10. 大学院修了者に求めること（複数回答）

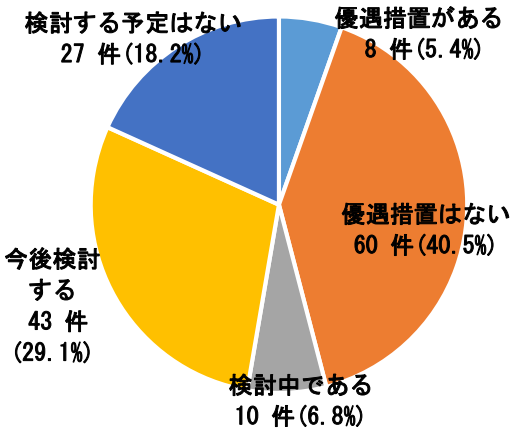
専門性を活かした業務	103	(69.1)
リーダーとしての役割	50	(33.6)
教育的役割	18	(12.1)
その他	3	(0.2)



「採用後、大学院修了者に求めること」は「専門性を活かした業務」が最も多く 103 件(69.1%)であった。次いで「リーダーとしての役割」が 50 件(33.6%)、「教育的役割」18 件(12.1)であった。

11. 大学院修了者の採用条件に関する優遇措置

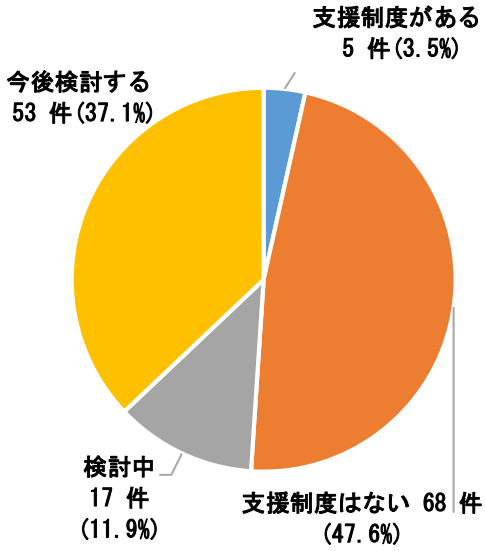
優遇措置がある	8	(5.4%)
優遇措置はない	60	(40.5%)
検討中である	10	(6.8%)
今後検討する	43	(29.1%)
検討する予定はない	27	(18.2%)
計	148	(100.0%)
無回答	1	



「法人としての大学院修了者への優遇措置はありますか。」と採用条件についても優遇措置について回答を求めた。優遇があるのは8件（5.4%）にとどまったが、「今後検討する」43件（29.1%）がみられた。

12. 働きながらの学修・研究に対する支援制度

支援制度がある	5	(3.5%)
支援制度はない	68	(47.6%)
検討中	17	(11.9%)
今後検討する	53	(37.1%)
計	143	(100.0%)
無回答	6	



職場における「職員が、働きながら大学院を希望した場合、可能な支援体制を教えてください。」という問いに対して、現在「支援制度がある」と回答したところは5件（3.5%）にとどまったが、「今後検討する」は、53件（37.1%）みられた。

その他　自由回答

・地域共生社会がますます進む中、多職種等と連携する機会も多く、それらに対応できる知識、行動力のある人材づくりが必要と思われます。

・中山間地域を引っ張っていく次世代育成をよろしくお願いします。

・全国、地域でもっともニーズに応える学科であると考えています。又、現実的に人材不足であると考えています。是非積極的に人材育成をして下さい。

・当法人は高齢者福祉事業と障がい者福祉事業をしています。又、中山間地域という事もあり、地域全体としての課題がたくさんあります。このような内容や取り組みをされる大学（学科）ができることはとても嬉しく思いますし、今後を担う人材の育成をしていただけると法人としても助かります。今後介護だけ、障がいだけ、相談だけではなく全体が考えられる人材が求められると思います。

・共生社会実現に向けて、社会福祉法人として地域課題解決、地域貢献等が求められている。介護、支援以外の役割を果たす人材育成が必要となる中、貴学の取組は活用したい。

新見公立大学大学院健康科学研究科地域福祉学専攻修士課程設置に関する要望書

全国的な少子高齢化の進行や人口の東京一極集中、高度情報化を背景としたグローバル化、環境保全や省資源への要請の高まりなど本市を取り巻く環境は大きく変化してきました。特に、本市では、これまでの想定を超えた速さで人口減少が進行しており、市全体の活力低下などが懸念される状況にあります。

こうした中で平成３０年度に「新見市版地域共生社会構築計画」を策定し、社会全体で市民生活や地域社会を支え、盛り立てていく仕組みの一環として「大学を活かしたまちづくり」を進めているところです。

「大学を活かしたまちづくり」では、貴大学が本市に設置されている利点を最大限に活かし、本市の活性化や課題解決を図っていくために、市民・市・大学が一つになって種々の取組を実践できることが本市にとって大きな強みとなっています。貴大学が本市の重要な地域資源であることを踏まえ、小規模多機能自治の推進とともに地域共生社会の構築に向けた取組において、貴大学が持つ様々な資源の有効活用が今後益々重要になってくると考えています。

貴大学においては、平成３１年４月に、課題先進地域にある地の利を活かし、地域を拓く「健康科学部」として、１学部３学科（健康保育学科、看護学科、地域福祉学科）に改組されました。人の生活基盤を支える３学科が協働して、「健やかな子どもの成長、心の豊かさの向上、高齢者の健康寿命の延伸」を指標として、地域共生社会の構築における３学科の役割と多職種連携を実践的に研究・教育されています。「地域で全ての世代の心と体の健康を切れ目なく支援する」ために、新たに発達障害児と病児への対応、特別支援学校教諭と養護教諭の養成、社会的弱者を護る社会福祉士の養成等に取り組み、本市全域をキャンパスとして、人に優しい地域共生社会の構築を検証しながら、地域貢献活動に取り組まれています。

地域共生社会の実現は、人口減少と少子高齢化に直面している本市はもとより、日本の全ての中山間地域の自治体において喫緊の課題であります。保健・医療・福祉の増進と地域の持続可能な未来を構築するためにも、中山間地域の課題解決のために活躍する「全世代型地域包括ケア福祉学」を実践するリーダーの育成を目指す新見公立大学大学院健康科学研究科地域福祉学専攻修士課程の設置を強く要望いたします。

令和４年２月２８日

公立大学法人新見公立大学
理事長　公 文 裕 巳　様

新　見　市　長　戎　斉

新見市議会議長　石　田　實

新見商工会議所会頭　林　田　昌　吾

令和４年２月２８日

公立大学法人新見公立大学
理事長　　公　文　裕　巳　　様

新見市社会福祉士会
スマイルソーシャルワーカーズにいみ
会長　　福　本　寿　美　子

新見公立大学大学院健康科学研究科地域福祉学専攻修士課程設置に関する要望書

近年、地域共生社会の構築に向けた理念や方針のもと、様々な関係機関や団体が相互に連携し、取組が行われているところであります。

２０２０年６月に成立した「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律」の参議院厚生労働委員会の附帯決議では、「社会福祉士や精神保健福祉士が活用されるよう努めること」と記されており、地域共生社会の実現に向けて社会福祉士の機能や役割に期待が寄せられています。

地域共生社会の実現を推進し、新たな福祉ニーズに対応するためには、複合化・複雑化した課題に対して、多機関との協働による包括的な相談支援体制を構築するために求められるソーシャルワークの機能と、地域住民が主体的に地域課題を把握し、解決を試みる体制を構築するために求められるソーシャルワークの機能の発揮が必要であり、ソーシャルワークの専門職である社会福祉士が、その役割を担っていけるような実践能力の修得が必要とされています。

本会では、児童、高齢、障がい、保健医療、地域福祉推進など、様々な分野における社会福祉士がその倫理のもと、専門的技能を研鑽し、社会福祉士の資質と社会的地位の向上に努めるとともに、社会福祉の援助を必要とする地域住民の生活と権利の擁護及び社会福祉の増進に寄与することを目的として、相互に連携し、調査・研究、技術の向上など様々な事業に取り組んでいるところです。

今後、地域共生社会の実現に向けて、本会も一層、社会福祉士としての研鑽に努める所存でありますが、さらに、少子高齢化、過疎化等によって複雑・多様化した中山間地域の住民が抱える福祉課題の解決のためには、より高度な知識と技術をもって活躍できる、専門性を備えた人材の育成と、地域社会への教育・指導を行う全世代型地域包括ケアを実践する福祉リーダーの輩出が求められております。

貴学においては、地域共生社会を支える福祉人材として、地域や福祉施設、自治体や医療機関で幅広く活躍できるよう、高い倫理観と知識・技能及びコミュニケーション力、地域や多職種と連携・協働できる力、生涯を通じて学び続ける力を身に付けた高度な福祉専門職の育成をとおして、高等教育を担う大学としての大きな役割を果たされているものと考えます。

以上の理由から、新見公立大学大学院健康科学研究科地域福祉学専攻修士課程の設置に期待し強く要望するものであります。

令和4年2月28日

公立大学法人新見公立大学
理事長　公 文 裕 巳　様

一般社団法人岡山県介護福祉士会
会長　安 達 悦 子

新見公立大学大学院健康科学研究科地域福祉学専攻設置に関する要望書

今日、withコロナ、afterコロナでの生活様式の変化が進む中、変貌する福祉ニーズに対し、専門職としての役割を果たすために、自らの足元の変化を直視し、この環境の中で何ができるのか、どう変えるべきなのかを考えていく必要があります。少子高齢化が更に進んでいく我が国の福祉ニーズに対し、介護職チームの中核を担う介護福祉士には、介護・福祉に課せられる諸課題に応えるための責任を果たしていくことが益々求められていきます。地域共生社会を目指す我が国において、「国民が安心できる社会生活を保障する」介護福祉士として、今、このような時代だからこそ国民福祉の更なる向上に向けて、我々自身がその未来を切り開いていかなければなりません。

介護福祉士は、生活支援の専門職として、また介護職チームのリーダーとして、多様な人材をマネジメントしながら、質の高い介護・福祉サービスを担保する責任があります。高度な介護技術を有する実践者としてのスキルはもちろんのこと、それらを指導・伝達する指導者としてのスキル、サービスの質の管理やチームメンバーをフォローするスキル、多職種連携でのマネジメントスキルなど、新時代に求められる姿は地域社会にとって不可欠なものであり、共生社会の実現において果たす役割は大きいと判断されます。

本会は、そういった介護福祉士の職業倫理及び専門性の確立、介護福祉に関する専門的教育及び研究の推進並びに介護に関する知識の普及を図り、介護福祉士の資質及び社会的地位の向上に資するとともに、県民の福祉の増進に寄与することを目的としています。

貴学における、共生社会を構築していくための福祉リーダーとして、全世代型の支援ができる高度な地域福祉人材の育成は、まさに本会の目的と一致しているところであります。

以上のことから、新見公立大学大学院健康科学研究科地域福祉学専攻修士課程の設置を期待し強く要望するものであります。

令和４年２月２８日

公立大学法人新見公立大学
理事長　　公　文　裕　巳　　殿

新見市社会福祉法人連絡協議会
会　長　　藤　村　　晃

新見公立大学大学院健康科学研究科地域福祉学専攻修士課程設置に関する要望書

現在、我が国は人口の高齢化や人口減少が進み、地域・家庭・職場という人々の生活領域における支え合いの基盤が弱まり、暮らしにおける人と人とのつながりが弱まっています。特に、中山間地においては、過疎化や少子高齢化の進行、高齢者世帯の増加、集落機能の低下、集落戸数の減少によるコミュニティ機能の低下、産業活動の低迷、社会資源の不足等の課題が深刻化しています。

岡山県の県北に位置する新見市は、令和４年１月現在、高齢化率 42.5%という課題先進地域であり、その中に新見公立大学があります。新見市は第 3 次総合計画の中で、令和 11 年度（2029）を目標年次として、「産業成長」「希望創造」「健康共生」「自然共存」を提示し、大学を活かしたまちづくりとして産官学民が協力して新見公立大学との連携による地域に密着した活動を推進しています。

現在、本市において福祉を支える人材として社会福祉士や介護福祉士養成のニーズは高く、さらに中山間地域における諸々の課題解決のために、「地域福祉」と「地域づくり」とが連動した地域包括ケアシステムの構築を目指す実践的リーダーとしての高度な人材を育成する教育機関ができることは望ましいことであり、今後を担う人材の育成・誕生が期待されます。

厚生労働省は「地域力強化検討会（地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制の在り方に関する検討会）」を設置して、住民主体による地域課題の解決力強化・体制づくりのあり方や、包括的な相談支援体制の整備のあり方についての検討を行い、平成 29 年 9 月に最終とりまとめを策定・公表しています。

これら国の政策的背景、自治体の施策、ならびに社会的要請から判断し、今後、ますます複雑化、多様化する中山間地域の生活課題を解決するために、また中山間地域で活躍する実践的福祉リーダーの人材育成のために、地域福祉学を基盤とした、中山間地域の生活課題に焦点を当てた新見公立大学大学院健康科学研究科地域福祉学専攻修士課程の設置を強く要望いたします。